

令和4年度

なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書



令和5年4月



なごや生物多様性保全活動協議会

目 次

はじめに	1	雨池ホタルの会	51
なごや生物多様性保全活動協議会(なごビオ)について	3	大高緑地湿地の会	52
動物調査と保全対策部会	7	尾張サンショウウオ研究会	52
水辺の生きもの部会	11	滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会	53
生物情報モニタリングデータベース部会	13	地球ハグ倶楽部	53
里山林・社寺林部会	15	中部蜘蛛懇談会	54
両生類部会	19	東谷山湿地群保全の会	54
昆虫類部会	23	中志段味の自然を次世代に伝える会	55
広報・PR事業	27	なごや外来種を考える会	55
なごや生物多様性サマースクール2022	29	「なごや環境大学」実行委員会	56
なごや生きもの一斉調査2022～陸貝編～	31	公益財団法人 名古屋港緑地保全協会	56
池干し～蛇池(西区)～	35	名古屋昆虫同好会	57
定例会	37	名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院 環境マネジメント研究科 長谷川研究室	57
会員活動支援	38	名古屋自然観察会	58
夏休み山崎川生きもの観察会 (山崎川グリーンマップ)	39	名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち	58
ネイチャー・フィーリング 研修会 (名古屋自然観察会)	40	名古屋市立大学大学院理学研究科附属 生物多様性研究センター	59
沢の森湿地保全活動(大高緑地) (花水緑の会)	41	なごやの森づくりパートナーシップ連絡会	59
地域活動支援	42	NPO法人 なごや東山の森づくりの会	60
細口池生きもの復活クラブ活動報告2022 (細口池生きもの復活クラブ)	43	NPO法人 日進野菜塾	60
助成金事業	44	日本カメ自然誌研究会	61
マイクロプラスチック (愛知県立愛知総合工科高等学校 科学技術部)	45	花水緑の会	61
花ハスの特性の研究と遺伝資源の保存収集 (愛知県立佐屋高等学校 科学部)	46	隼人池を美しくする会	62
里山モデルづくり (名古屋経済大学市邨中学校・高等学校 科学研究部)	47	NPO法人 藤前干潟を守る会	62
桜台高校天文部生物班の活動報告 (名古屋市立桜台高等学校 天文部生物班)	48	三河淡水生物ネットワーク	63
南山高等・中学校男子部理科部生物班の活動 (南山高等・中学校男子部 理科部生物班)	49	名東自然観察会	63
会員団体の活動紹介・報告		名東自然倶楽部	64
相生山緑地自然観察会	50	もりづくり会議	64
「あいちの海」グリーンマップ	50	名城大学野生動物生態研究会	65
愛知守山自然の会	51	矢田・庄内川をきれいにする会	65
		山崎川グリーンマップ	66
		四日市大学野生動物保全学研究室 (野呂研究室)	66

1. COP15開催、2030年に向けた生物多様性保全の目標

令和4（2022）年12月7～19日に第15回生物多様性条約締約国会議（COP15）が、コロナ禍による2年間の開催延期を経て、また開催場所をコロナ禍が収まらない昆明市（中華人民共和国雲南省）からモントリオール市（カナダケベック州）に移して開催されました。この会議では、2010年に名古屋市で開催されたCOP10にて2020年までの国際目標とされた愛知ターゲットに継ぎ、2030年までの国際目標である昆明・モントリオール生物多様性枠組が採択されました。この枠組みではネイチャーポジティブ（自然生態系の損失を食い止め、回復させていくこと）を達成し「自然と共生する世界」を2050年ビジョンとし、2050年までの4つの長期目標と、2050年ビジョンに向けた2030年ミッション及び23のターゲットを掲げています。この内、柱となるターゲットに「30by30」[サーティ バイ サーティ：生物多様性条約締約国（194の国と地域）において2030年までに世界の陸と海のそれぞれ30%以上の保全・保護を目指す目標]の達成とそれに向けたOECM（Other Effective area-based Conservation Measures）の具現化が明示されました。OECMとは既存の保護地域以外で生物多様性保全に資する場所のことで、例えば、国立公園や国定公園の様な広大で自然性が高い場所だけでなく、都市圏の緑地、企業緑地、社寺林なども対象となる仕組みです。日本においては、既存の保護地域とOECMをあわせて「自然共生サイト」という名称で認定を進めていくこととしています。名古屋市は、30by30を推進する有志連合である「生物多様性のための30by30アライアンス」に参加していることから、生物多様性と共にある都市の実現に向けて、自然共生サイトの認定推進が期待されます。なごビオが蓄積している生物情報やモニタリングの仕組みなどが、なごやの自然共生サイトの認定に対して果たす役割は大きいことでしょう。な

ごビオは、名古屋市の自然共生サイトの認定を積極的に支援していきます。

2. 期待される企業の生物多様性保全への参画

近年、特に2023年に注目される社会的動向としてTNFD(Taskforce on Nature-related Financial Disclosures：自然関連財務情報開示タスクフォース)の本格的な始動が挙げられます。TNFDとは、既に多くの企業が取り組んでいる企業活動の情報開示フレームワークの一つであるTCFD(Taskforce on Climate-related Financial Disclosure：気候関連財務情報開示タスクフォース)の生物多様性版で、企業に対して、事業のバリューチェーンにおいて、どの程度生物多様性に影響を与えているか、保全に貢献しているかの情報の開示を求めていく仕組みです。このことにより、企業は、経営資源の持続的な確保だけでなく、近年世界的に拡大しつつあるESG投資[環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance)の視点を考慮した投資手法]に対応し社会的評価を獲得するためにも、事業内外において、生物多様性保全への取組を強化していくことが期待されます。この機に、なごビオにおいても、これまで以上に、企業との連携を推進していきます。

3. 名古屋市の生物多様性保全の取組～生物多様性なごや実行計画2030、都心の生きもの回復事業

この様に2030年に向けては、生物多様性保全の取組みが経済界までを含めて推進されることが期待される中、名古屋市においても、注目される取組みが行われていますので、その中から、2つ紹介いたします。

1つは、名古屋市における生物多様性保全に関する施策、事業やそれらの2030年までの目標を示した「生物多様性なごや実行計画2030」の作成が進められていることです。本実行計画においては、名古屋市における自然共生サイトの

認定数や市民参加型生きもの調査の延べ参加者数などを、2030年までに達成すべき具体的な数値目標として設定しており、指標種を設定した定時・定点調査についても取り組むべき事項として掲載する予定です。令和5（2023）年度中に公表される予定のこの実行計画にもぜひ注目して頂きたいと思います。なごビオは本計画の中で重要な役割を果たす組織として位置付けられています。

もう1つは、名古屋市の都心部（東は久屋大通公園、西は名古屋駅が含まれる都心地域）において開始された「都心の生きもの復活事業」です。この事業は、生物多様性に配慮したまちづくりを推進するため、事業者・市民団体等との協働により、都心の生態系の回復をはかりながら、生物多様性の大切さを伝える場を創出する事業です。令和4（2022）年度には、大和ハウスリアルティマネジメント（株）（実施施設：マルエイガレリア）および大和リース（株）（実施施設：グローバルゲート）のモデル事業が実施されました。本事業では、モデル事業から得られた知見等をまとめ、2023年3月に、オフィスビル管理者や市民団体等を対象とした、生物多様性に配慮した緑化等を促すガイドラインが作成、公表されました。

4. なごビオの動向

なごビオの各部会長はこの地域を代表する専門家が担い、なごやの生物多様性の実態についての専門的かつ最新の情報が協議会に集まる体制になりつつあります。令和3（2021）年度の両生類部会の発足に続き、令和4（2022）年度は昆虫類部会が発足しました。これで、哺乳類・爬虫類を主な対象とする動物部会（動物調査と保全対策部会）、主に水生生物（魚類・甲殻類・水生植物等）を対象とする水辺部会（水辺の生きもの部会）、主に陸生植物を対象とする里山林・社寺林部会、主に両生類を対象とする両生類部会、そして、昆虫類を対象とする昆虫類部

会が揃い、加えて既存資料や調査結果のデジタル化と公開を行うデータベース部会（生物情報モニタリングデータベース部会）という体制になりました。これで、都市圏において保全対象となることが多い生物の分類群についての部会がより充実することになりました。こうした部会活動で得られた多くの生物情報は、令和7（2025）年度に発刊される予定の「レッドデータブックなごや2025」に反映されます。

令和5（2023）年度は、2030年までの生物多様性保全の目標達成に貢献できる様に活動を展開し、始動していく大切な年となります。本稿で紹介しました国際目標や名古屋市の実行計画における目標の達成、そしてその先にある生物多様性と共にある都市の実現には、公共セクターだけでなく、市民、NPO、保全団体、そして、企業等の民間セクターの生物多様性保全への参画が必要不可欠です。なごビオが、これら主体の協働で事業展開する組織であることは、なごや都市圏の生物多様性保全を担う組織として大きな期待が持てると考えています。多様な主体の意見を取り入れ、時宜に適した活動を展開できる強みを見直し、一層の活動の充実を図っていきたいと考えています。これからも多くの皆様からのご支援、ご参加、そしてご指導を賜りたいと存じます。

なごや生物多様性保全活動協議会（なごビオ）について

協議会（なごビオ）の設立

名古屋市には東部丘陵地を中心に110箇所ものため池が現存しています。しかしながら、都市農業の衰退により、ため池の主な役割が「利水」から「治水」に変化しました。そのため、人とため池との係わりが希薄化したことや、外来種の侵入によって在来の生きものが減少したことで、ため池における生態系の劣化が進んでいると言われていました。

COP10開催決定を契機に、平成20（2008）年度から3年間、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を設立し、地域住民・市民団体・行政が協働で、ため池の生物調査や保全活動を行ってきました。

平成23（2011）年度からは、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げるとともに、侵略的外来種の防除に力を入れるなど、活動内容を拡充するため、「なごやため池生物多様性保全協議会」の組織体制と人材を拡充し、「なごや生物多様性保全活動協議会（なごビオ）」（以下「なごビオ」という）を平成23年5月15日に設立しました。

なごビオの設立目的は、なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来種防除などを通し、身近な自然の保全を実践することです。

構成

なごビオは令和5（2023）年3月末現在、41の団体会員、23名の個人会員、名古屋市で構成しています。1年間の事業計画や事業報告については、総会にて議決します。

また、役員（会長・副会長3名・監事2名）と幹事（16名）を置き、幹事会にて運営に係る事項について協議しています。

事業の実施にあたっては、活動分野ごとに部

会を設置し、部会ごとに調査内容・方法・日程・人員等の計画を作成し、実施しています。事務局は、各部会や実行委員会の実施する調査や会議、イベントについて、準備・連絡調整等の役割を担っています。

市民の方を対象に、なごビオが実施する調査やイベントなどへ参加いただく仕組みとして、「なごや市民生きもの調査員」を募集しています。登録いただいた方には、イベントなどの募集情報を毎月案内しています。（令和5年3月7日現在・登録者数1,121名）

活動内容

なごビオは設立目的に基づき、市民・専門家・行政の協働で、生物多様性に関する調査・保全活動を実施しています。

活動を支える事務局と拠点は「名古屋市環境局なごや生物多様性センター」が担っており、名古屋市の負担金により事業を実施しています。

なごビオが令和4（2022）年度に取り組んだ主な調査・保全活動は、アライグマ・ミシシippアカミミガメ・クビアカツヤカミキリ・オオキンケイギクなどの外来種対策、市内の里山・緑地・ため池などにおける生物調査等を実施しました。

また、身近な自然や生きものに一層の関心をもっていただく機会として、7月及び8月に小中学生を対象とした「なごや生物多様性サマースクール2022」を、10月には「なごや生きもの一斉調査2022」として、陸貝の調査を市民のみなさんと共に行いました。

調査・保全活動を通して得た結果については、収集・蓄積し今後に生かすため、生物情報モニタリングデータベースの構築を進めています。

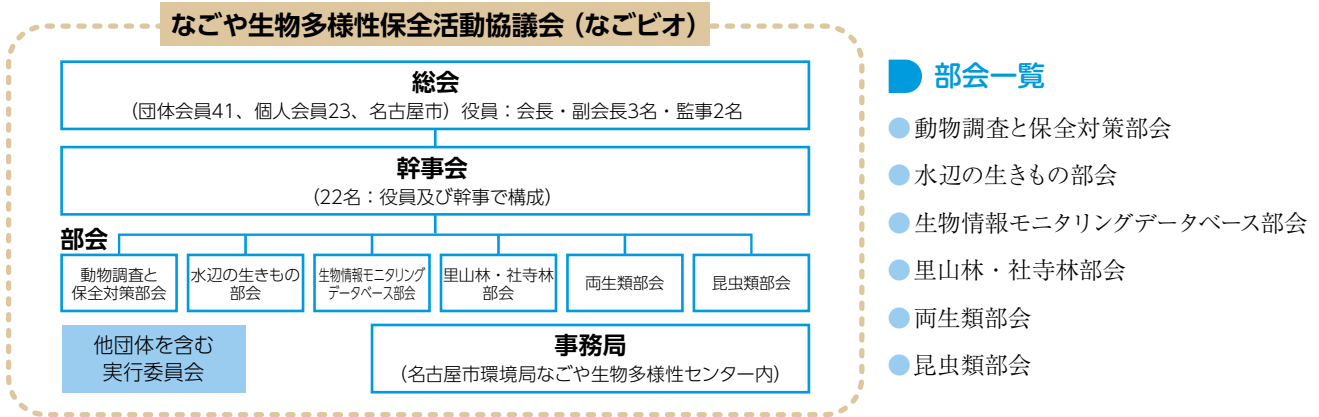
また、なごビオの取り組みを発信する場として、毎年5月には活動報告会を開催しています。

なごビオは、令和3年に設立10周年を迎えました。この数年間は、新型コロナウイルスによ

る未曾有の社会状況の中で、様々な場面で活動の制限を余儀なくされましたが、これを機に新たな部会である両生類部会や昆虫類部会を設置

するなど、組織の改編等にも取り組み、なごやの生物多様性保全を担う組織としての歩みを止めることなく邁進してきました。

令和4年度協議会の組織・構成



幹事一覧

(令和5年3月末現在・敬称略)

氏名	所属等	備考
石原 則義	愛知守山自然の会	
伊藤 隆之	名古屋市環境局環境企画部主幹 (生物多様性の保全担当)	
梅本 洋子	花水緑の会	副会長
大沼 淳一	個人会員 (専門分野/水質)	
大矢 美紀	山崎川グリーンマップ	
熊澤 慶伯	名古屋市立大学大学院理学研究科附属生物多様性研究センター・教授	
小菅 崇之	個人会員 (専門分野/水生植物)	副会長
齋藤 牧	なごや環境大学実行委員会	監事
榊原 靖	個人会員 (専門分野/水生生物)	
佐藤 裕美子	名古屋自然観察会	
鷺見 順子	滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会	監事
高木 和彦	名東自然倶楽部	
瀧川 正子	NPO法人なごや東山の森づくりの会	
戸田 尚希	名古屋昆虫同好会	
富田 啓介	愛知学院大学教養部准教授	
野中 賢輔	なごや外来種を考える会	
野呂 達哉	四日市大学環境情報学部野生動物保全学研究室特任准教授	
橋本 啓史	名城大学農学部生物環境科学科准教授	副会長
長谷川 泰洋	名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院環境マネジメント研究科 長谷川研究室	会長
藤谷 武史	尾張サンショウウオ研究会	
森山 昭彦	中部大学応用生物学部環境生物科学科教授	
矢部 隆	日本カメ自然誌研究会	

なごや生物多様性保全活動協議会について

● 会員一覧

● 団体会員

団体名
相生山緑地自然観察会
「あいちの海」グリーンマップ
愛知守山自然の会
雨池ホタルの会
荒池ふるさとクラブ
伊勢・三河湾流域ネットワーク
大高竹の会
大高緑地湿地の会
尾張サンショウウオ研究会
白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会
雑木林研究会
滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会
地球ハグ倶楽部
中部蜘蛛懇談会
東谷山湿地群保全の会
中志段味の自然を次世代に伝える会
なごや外来種を考える会
なごや環境大学実行委員会
公益財団法人 名古屋港緑地保全協会
名古屋昆虫同好会
名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院環境マネジメント研究科 長谷川研究室
名古屋自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
名古屋市立大学大学院理学研究科附属生物多様性研究センター
なごやの森づくりパートナーシップ連絡会
NPO法人 なごや東山の森づくりの会
NPO法人 日進野菜塾
日本カメ自然誌研究会
日本野鳥の会愛知県支部
花水緑の会
隼人池を美しくする会
NPO法人 藤前干潟を守る会
三河淡水生物ネットワーク
名東自然観察会
名東自然倶楽部
もりづくり会議
守山リス研究会
野生動物生態研究会
矢田・庄内川をきれいにする会
山崎川グリーンマップ
四日市大学環境情報学部野生動物保全学研究室

(令和5年3月末現在・敬称略)

● 個人会員

氏名
飯尾 俊介
伊東 英幸
今井 洸貴
太田 貴大
大塚 徹
大沼 淳一
加藤 航大
川瀬 基弘
小菅 崇之
齊藤 毅
榊原 靖
佐藤 裕美子
高木 順夫
高山 博好
土山 ふみ
寺本 匡寛
研谷 厚
富田 啓介
橋本 啓史
伴 知幾
松沢 孝晋
守谷 茂樹
森山 昭彦

● 名古屋市

なごや生物多様性保全活動協議会事務局を、なごや生物多様性センター内に置く。

通常総会の開催

開催日	審議事項
5月8日	1 令和3年度事業報告について 2 令和3年度決算報告について 3 令和3年度会計監査報告について 4 令和4年度役員選出について 5 令和4年度事業計画（案）について 6 令和4年度収支予算（案）について

幹事会の開催

回	日付	協議・報告事項
第1回	5月26日	1 部会事業報告 2 なごびオの活動実績の公表（案） 3 会員活動支援
第2回	6月23日	1 部会事業報告 2 なごびオの活動実績の公表（案） 3 準部会員（案） 4 環境デーなごや 5 「第2回生きものフェス」への出展
第3回	7月28日	1 部会事業報告 2 環境デーなごや展示（案） 3 準部会員（案） 4 サポーター制度（案） 5 会員活動支援
第4回	8月25日	1 部会事業報告 2 環境デーなごや展示（案） 3 部会活動への参加呼びかけ 4 会員活動の共催 5 生物多様性なごや戦略「実行計画2030」
第5回	9月22日	1 部会事業報告 2 センターまつり展示（案） 3 なごびオの活動実績の公表 4 活動報告書資料編
第6回	10月27日	1 部会事業報告 2 なごびオの活動実績の公表 3 部会活動への参加呼びかけ 4 センターまつり展示（案）
第7回	11月24日	1 部会事業報告 2 令和5年度予算の枠組み 3 令和5年度総会及び令和4年度活動報告会 4 一斉調査（テントウムシ編）のデータ使用 5 部会活動への参加呼びかけの運用
第8回	1月26日	1 部会事業報告 2 令和5年度事業計画・予算 3 令和4年度活動報告会の講師 4 令和5年度一斉調査の対象種 5 令和5年度定例会
第9回	2月16日	1 部会事業報告 2 令和5年度予算（追加） 3 新規会員 4 謝金規程の改正 5 令和5年度定例会

動物調査と保全対策部会

部会長 野呂 達哉・曾根 啓子・宇地原 永吉

はじめに

市内と周辺地域に生息する野生動物について、部会員と有志（学生、専門家、大学研究室、保全団体等）が協力して、種ごとの分布状況や生息環境を明らかにすることを目的としている。

また、調査で採集、捕獲した生物や駆除等で捕獲した生物について、計測や解剖、標本化を実施している。それらの結果や標本については「なごや生物多様性センター」に収蔵・蓄積している。

さらに、これらの結果や資料を基に、外来種の防除や在来種の保護、保全を計画、実施している。

その他、活動内容や成果を伝える啓発、展示、環境学習、調査実習、大学生の卒業論文等にも協力している。

主な活動内容

- カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除
- ニホンイシガメの保全
- 哺乳類調査とアライグマ・ヌートリア等外来哺乳類の防除
- コウモリ類の調査と保全
- 標本の作製と分析

今年度の活動記録

●カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除

内容 籠ワナによる捕獲調査は、以下の場所と日程で実施した。

山崎川（瑞穂区）：6月11日、12日

名古屋城外堀：6月16日、17日、
10月22日、23日

おふけ池（名城公園）：6月16日、17日、
10月22日、23日

牧野池：5月21日、22日

神沢池：6月9日、10日

水広下池：6月9日、10日

なお、10月22日、23日の名古屋城外堀とおふけ池（名城公園）の調査は、ユースに向けたカメ類調査実習として行われた（図1）。



図1. ユースに向けた調査実習（名古屋城外堀）

浮島型ワナによる捕獲調査は、以下の場所で実施した。

二ツ池（守山区）、細口池、隼人池：継続
蛇池（西区）：8月5日～



図2. 捕獲されたアカミミガメ（二ツ池 下池）

連携 二ツ池の自然と緑を守る会、隼人池を美しくする会、細口池生きもの復活クラブ、山崎川グリーンマップ、牧野ヶ池緑地保全協議会、名古屋ECO動物海洋専門学校、名城大学、四日市大学

●ニホンイシガメの保全

内容 名古屋市のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているニホンイシガメについて、保全のための繁殖を試みている。卵はインキュベーターで温度を調整し、孵化する幼体の性別を管理している。これまでに、塚ノ杖池、隼人池、鏡ヶ池産の個体が繁殖に成功している。現在、孵化した幼体は、なごや生物多様性センターで育成中。今後、現地に放逐予定である。



図3. 卵の計測（なごや生物多様性センター）

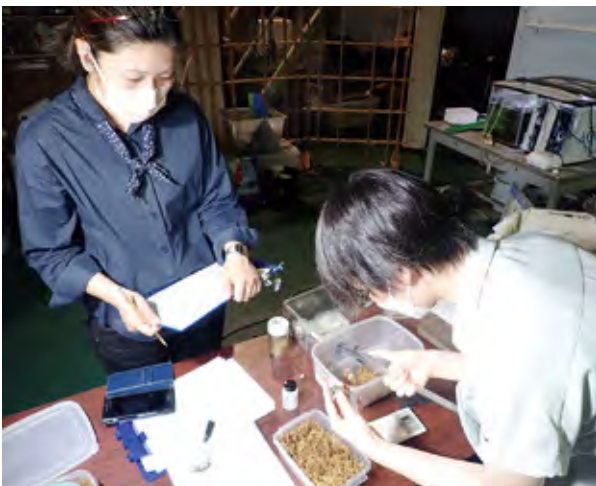


図4. 孵化直後の幼体の計測（なごや生物多様性センター）

連携 名古屋ECO動物海洋専門学校、名城大学、なごや生物多様性センター

●哺乳類調査とアライグマ・ヌートリア等外来哺乳類の防除

1. 環境DNAによる哺乳類調査

内容 昨年度、アライグマ・ヌートリア等の外来哺乳類の捕獲実績が良くなかったことから、本年度は捕獲調査を中止した。代わりに、環境DNAによる哺乳類の生息調査を試みた。分析に使用する環境水の採水は、コウモリ類のねぐらとなっている穴の出入口に溜まった水と生息地域内にある河川または細流から行った。DNAの抽出と分析は専門業者に委託した。

採水場所：コウモリ類のねぐらおよび林内細流（三重県四日市市・北勢中央公園）、林内細流（東谷山）、河川（野添川）、ため池側の細流（小幡緑地）。

北勢中央公園：10月25日、11月8日、

11月15日

東谷山・野添川・小幡緑地：12月3日



図5. 採水場所の細流（野添川）

連携 四日市大学

2. センサーカメラによる哺乳類調査

内容 市内における哺乳類の生息状況を把握するためにセンサーカメラによるモニタリング調査を実施した。本年度は昨年度から継続して小幡緑地、東山動植物園、東山公園南部、大高緑

動物調査と保全対策部会

地にカメラを設置している。3月以降、東谷山、明徳公園、平和公園などにもセンサーカメラを設置する予定である。



図6. カメラで捉えたアカギツネ

連携 花水緑の会、愛知守山自然の会、名古屋大学未来材料・システム研究所林研究室

●コウモリ類の調査と保全

1. 音声モニタリング

内容 コウモリ専用の録音マイクを車に搭載し、名古屋市内および名古屋市近郊においてコウモリ類の音声モニタリングを実施した。また、ユース向け講座も8月9日に行った。(図7)

大村池(守山区)～名東区：4月9日

長久手市～名東区：4月10日

弥富市～名東区：5月11日、5月27日、

6月1日、6月13日、

9月7日、9月28日、

10月21日、11月2日

瀬戸市～名東区：5月14日

中川区～名東区：5月15日

大府市～名東区：5月22日、6月2日

緑区～名東区：6月20日、9月5日

港区～名東区：6月25日

昭和区～名東区：6月30日

豊田市～名東区：7月31日、8月23日

名古屋城(中区)～名東区：11月3日

牧野ヶ池緑地(名東区)：9月25日

植田川(天白区)：8月9日

東谷山(守山区)：10月6日



図7. ユース向け講座(なごや生物多様性センター)



図8. 音声を利用した生息調査(牧野ヶ池緑地)

連携 四日市大学、名城大学野生動物生態研究会

2. ねぐら調査

内容 キクガシラコウモリのねぐらとなっている才井戸流(守山区)の人工洞穴で専用の自動録音装置による音声モニタリングおよびハープトラップによる捕獲調査を実施した。なお、コウモリ類の捕獲調査は愛知県の許可を得て行った。

捕獲調査：11月14日



図9. ハープトラップの設置 (才井戸流)



図10. 捕獲したキクガシラコウモリ (才井戸流)

● 標本の作製と分析

1. 哺乳類の解剖と標本化

内容 なごや生物多様性センターで収集している動物（アライグマ、ハクビシン、ヌートリア、シベリアイタチ等）についての解剖と標本作製を実施した。作製した標本をなごや生物多様性センターに収蔵した。

実施日

名城大学野生動物生態研究会：1回目（4月29日）、2回目（5月4日）、3回目（5月15日）、4回目（8月26日）、5回目（10月22日）、6回目（11月13日）、7回目（12月18日）、8回目（2月19日）、9回目（3月15日）

連携 名城大学野生動物生態研究会、なごや生物多様性センター



図11. ハクビシンの解剖と標本作製 (なごや生物多様性センター)

2. カメ類の骨格標本作製

内容 部会事業で収集された在来カメ類（ニホンイシガメ、クサガメ）について、骨格標本の作製を行った。

実施日：3月6日、7日、9日



図12. 作製したカメ類の骨格標本 (なごや生物多様性センター)

結果の概要と今後について

調査結果については、今後、「資料編」および「なごやの生物多様性」などで発表する予定である。

はじめに

水辺の生きものの部会では、名古屋市及びその周辺の水域に生息する水辺の生きものについて、なごびオ会員、市民調査員、学生、専門家、保全団体などと協働による生息・分布調査、保全活動、普及啓発を行っています。

在来種の保全や外来生物の防除を計画・実施することにより、生物多様性の保全に寄与しています。

主な活動内容

- 池干しモニタリング調査
- 川の生きもの調査と次世代育成
- なごやの希少種対策と保全
- 外来種対策及び普及啓発

今年度の活動記録

●池干しモニタリング調査

内容 過去に池干し調査を実施した場所について、定量調査することにより生息状況の確認を行うため、タモ網による採集を5名30分とモンドリによる定量調査5個30分を、以下の場所と日程で実施した。

ガマ池（北区） 5月25日

すり鉢池（名東区） 7月29日



図1. モンドリ設置の様子（ガマ池）



図2. 放流されたカダヤシ（すり鉢池）

連携 名城大学、名東自然倶楽部、みどりの協会ほか

●川の生きもの調査と次世代育成

内容 河川の調査はタモ網による定性調査を以下の場所と日程で実施した。

植田川（天白区） 4月23日、5月26日、

6月23日、7月28日、8月24日、9月29日、
10月20日

山崎川（瑞穂区） 5月19日、7月22日

戸田川（中川区） 9月10日

大江川（南区） 6月4日

堀川（北区） 10月15日



図3. 採集の様子（植田川）

連携 名城大学、山崎川グリーンマップ、みどりの協会ほか

●なごやの希少種対策と保全

内容 在来植物であるガガブタやオニバス、生息地が減少しているカワバタモロコや水草類の生息域外保全を実施した。

希少植物調査： 7月6日、9月11日

生息域外保全の整備：通年



図4. 名古屋城での水草調査



図5. カワバタモロコの生息域外保全 (戸田川緑地農業科学館)

●外来種対策および普及啓発

内容 市内ため池においては園芸品種である外来スイレンが野外で繁茂していることが確認されている。外来スイレンの抜根による防除を東山新池(千種区)、牧野ヶ池緑地内にある牧野池(名東区)で実施した。

東山新池：11月3日

牧野池：10月26日



図6. 外来スイレンの防除 (牧野池)

連携 なごや東山の森づくりの会、牧野ヶ池緑地保全協議会ほか

結果と今後について

生態系の保全のため外来生物防除と、保全活動・生息状況を把握するための分布調査を中心に実施した。また、次世代へ受け継ぐために学生や社会人向けの調査や講座を実施し、継続的な保全活動を進めて行く。

今後は河川の魚類・甲殻類の生息調査を拡大して行い、チュウゴクスジエビなどの侵入状況を確認することや池のエコトーンへの保全に向けた取り組みを計画している。

はじめに

生物情報モニタリングデータベース部会では、なごびオの行う生物調査・既存文献・市民の通報などから得たなごやの生物多様性の現況についての情報を集約・一括管理するとともに、集約された生物情報を広く提供するツールとして活用することを目的として、平成23年度からデータベースの構築を行っている。

主な活動内容

生物情報の収集・登録・発信として、なごや生物多様性センターのウェブサイト「なごや生きものマップ」を通じた市民からの生物情報の収集、なごびオの各部会や一斉調査等の結果のデータベースへの登録、情報が集まった生物の分布図のウェブサイト上での提供を行っている。また、昔の写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成、空中写真の蓄積も行っている。

生物情報モニタリングデータベースのページ
<http://www.bdnagoya.jp/creature/database.html>

今年度の活動記録

●部会の開催

今年度は2回の部会を開催した。

●生物情報の収集・登録・発信

○市民からの生物情報の収集

今年度からは、なごや生物多様性センターの新しいデータベース「なごや生きものマップ」(図1)を使い、広く市民から目撃情報の募集を行った。



図1. なごや生物多様性センターの新しいデータベース (https://ikimono.city.nagoya.jp/ikimono_map/)

この新しいデータベースでは募集する生物情報は特定種に限っていないが、これまで募集してきた25種の中から、特にツバメ類とオオキンケイギク(5月)、アマガエルとウシガエル(7月)、ムネアカハラビロカマキリとハラビロカマキリ(8月)、タヌキやハクビシンなどの哺乳類(10月)について、それぞれのよく見られる季節に、市民やなごびオ会員・市民調査員に情報提供を呼びかけた。

その結果、令和4年2月から令和4年12月末までに47種86件の情報が寄せられた。種別では多い順にオオキンケイギクの12件、タヌキの9件、アライグマの7件、ミシシippアカミミガメの5件であった。分類群別で見ると、哺乳類がもっとも多く23件、次いで昆虫類が22件であった(表1)。昨年度分も含めた「なごや生きものマップ」に寄せられた情報件数が一番多かったオオキンケイギクの分布図を図2に示した。

表1. 寄せられた情報の分類群別件数 (多い順)

分類群	件数
哺乳類	23
昆虫類	22
種子植物	12
は虫類	9
鳥類	9
両生類	5
魚類	3
その他	2
シダ植物	1
計	86

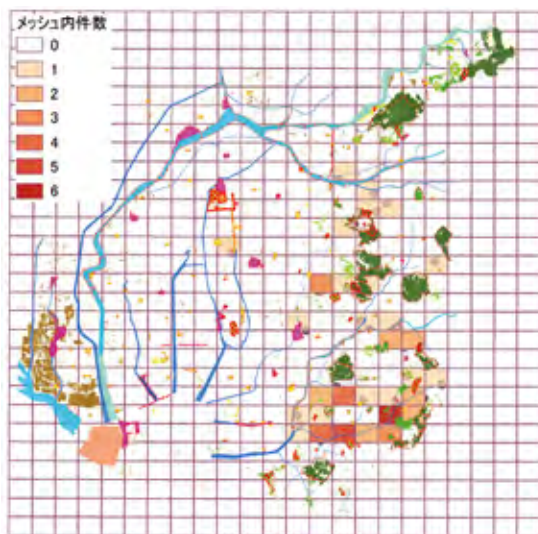


図2. 2021-2022年のオオキンケイギクの分布

○なごビオの調査結果等のデータベースへの登録

なごや生物多様性センターの新しいデータベースへの統合に向けての検討を引き続き行い、概ね方針が固まった。まだデータ化されていない各部会の調査結果の登録促進に向け、説明や協力方法の検討を続けている。

○生物情報のウェブサイト上での提供

今年度は図2の通り、オオキンケイギクの分布図を作成した。ウェブサイトにも掲載予定。

○写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成

寄贈された過去のなごやの自然の写真・フィルムを活用するため、写真・フィルムのデジタルデータ化を進めている。今年度は1035枚のポジフィルム写真のデジタル化を進めた。

○空中写真の蓄積 (ドローンによる空撮)

今年度は外来植物キシウブの分布把握を目的とし、平和公園猫ヶ洞池での撮影を5月23日に実施した(図3)。



図3. キシウブの分布 (赤丸)。枠内は部分拡大。

●その他

今年度は8月3日に開催された第70回オンライン定例会で、「なごビオ 生物情報モニタリングデータの活用事例の紹介」というタイトルで部会活動の紹介を行った。

今後について

今後も生物情報および写真の収集・登録・発信を行っていく。また、情報がある程度集まった種については、種ごとの分布図を作成し、なごビオの報告書やウェブサイト等で紹介していきたい。

なお、次年度のドローンによる空撮対象地は、東山公園の一部で検討している。

里山林・社寺林部会

はじめに

里山林・社寺林部会は、本年度で6年目となりました。本部会は、里山林や社寺林等の樹林地を対象として、その保全管理の効果や植生の質（郷土種の保全状況、希少種、巨樹の分布・生育適地等）の調査を進め、より生物多様性保全に資する保全手法を開発し、啓発に資する知見を集積することを目的にしています。

部会事業は、昨年度の活動を引き継ぎ、事業①里山・社寺林における植物相、植生調査、事業②希少種の生育環境調査、事業③巨樹の生育状況調査、事業④伐採木の樹幹解析、萌芽調査、事業⑤生物多様性保全、普及に関するアンケート調査を行い、そして、事業⑥日常生活圏における生物情報の普及啓発手法の検討を行いました。

事業①及び③では、天白区、緑区、守山区を主な調査地として、区別に集中的に調査を行い、成果の可視化を図るとともに、区土木事務所や地元保全団体等の地域団体との情報共有を図りました。事業②では、市内で適湿で生物多様性が高い自然林の指標種となりうるカンアオイ類の生育環境を明らかにするため、土壌水分量・地温の年間の変動を明らかにするための調査を始めました。

これらの主な成果として、市内で絶滅判定とされている種の複数の再確認（コモチシダ、ノタヌキモ等）や市内では確実な記録が残っていないウリハダカエデ、キハダ、タンナサワフタギを確認するなど、生物多様性保全の観点から重要な成果が得られました。

活動成果の詳細や分析結果は資料編などの別稿にて報告する予定です。本報告では、各事業の活動状況と主な成果、活動の様子を報告します。

令和4年度の主な活動と成果

事業①：里山・社寺林における植物相、植生調査

本年度は天白区、緑区、守山区の主要な樹林

部会長 長谷川 泰洋・橋本 啓史・西部 めぐみ

地やため池が残る樹林地を対象として、フロラリスト及び代表地点における植生調査を行いました。

期 間 2022年4月～11月

場 所 龍泉寺（4/19、5/4）、秋葉山慈眼寺（4/30）、針名神社（4/30、6/27）、徳重熊野社（6/4）、有松天満社（6/4）、鷺津（6/27）、安田池（7/16、9/16、11/7）、小幡緑地（7/25）、大久手池緑地（8/1）、氷上姉子神社（8/5）、みどりヶ丘公園・勅使池（9/5）、勅使ヶ池緑地・濁池（9/12）、戸笠公園（10/31）、新海池公園（10/31）、野添川下流部（11/7）、相生山（11/20）

活動回数 14回

参加人数 延べ51人

成 果 調査は継続中のため、合計の種数はまだ未確定ですが、各区で400-500種程度のフロラリストを作成中です（詳細は資料編に掲載予定です）。

今年度も、既に絶滅と判定されている種の再確認やこれまでに名古屋市内で確かな記録がない複数の種を確認しました。絶滅判定種の再確認としてコモチシダ、ノタヌキモ（写真①、②）、市内で初確認となる種としてウリハダカエデ（写真③）、タンナサワフタギを確認しました。また、少なくとも市内では最大級のミミカキグサの大群落（写真④）を確認しました。



写真①コモチシダ（絶滅判定種の再確認）



写真②ノタヌキモ (絶滅判定種の再確認)



写真③ウリハダカエデ (市内初確認)



写真④ミミカキグサの大群落 (50m以上続く群落)

事業②：希少種の生育環境調査

(1) カンアオイ類

市内のカンアオイ類は、ヒメカンアオイ (小型種をゼニバサイシンと言い、東海地方に多い) とスズカカンアオイが確認されています。カン

アオイ類の種子はアリ散布のため、移動が大変遅く、その生育地は長らく自然環境が維持されてきたことの証左となります。昨年度に市内の網羅的な分布、個体数等の調査を進め、市内の主要な生育地を明らかにしました。今年度は、その中から、保全活動の実践につなげられる場所を選定し、カンアオイ類の生育にとって重要な土壌水分量、地温の年変動を記録する調査を、天白溪、相生山緑地、大高緑地で開始しました。生育地 (谷側)、非生育地 (尾根側) で計測を行い、カンアオイ類の生育適地の環境特性を明らかにします。昨年12月から計測を開始して12月となる現在も計測を継続中です。この計測は令和5年度も継続予定です。

途中経過となりますが、大高緑地のカンアオイ類生育地の土壌水分量の結果は図①の通りとなっています。生育地では土壌水分量が高めに推移する傾向が伺えます。



図①大高緑地ヒメカンアオイ生息地の2022年2月から4月の土壌水分量 (m³/m³)

期 間 2022年5月～9月

場 所 相生山緑地 (5/16、9/26)、大高緑地 (5/16、9/26)、天白溪 (5/2、6/13、7/11、9/26)

活動回数 5回

参加人数 延べ21人

(2) クロミノニシゴリ

猪高緑地すり鉢池周辺のクロミノニシゴリの保全作業を行っていくにあたり、事前の生育環境を記録するため、各個体の樹冠上部で全天写真の撮影を行いました。この撮影データを元に各個体への日照量を把握し、保全作業後の日照量と比較することで、保全作業の効果を明らかにする予定です。

期 間 2022年 6月
場 所 猪高緑地 (6/13)
活動回数 1回
参加人数 延べ3人

(3) クロヤツシロラン

市内東部の緑地のクロヤツシロランの分布、個体数等の調査を行いました。小群落が緑地内の大きな谷地形に沿って、数十箇所分布していることが分かりました。

期 間 2022年11月
場 所 市内東部の緑地 (11/28)
活動回数 1回
参加人数 延べ4人
協 働 名東自然倶楽部

(4) ササユリ

大高緑地、平和公園のササユリ保全活動エリアにて、開花個体数等の記録を作成しました。

期 間 2022年 4月～7月
場 所 大高緑地 (4/13、5/5、7/13)、平和公園 (6/14、7/11)
活動回数 5回
参加人数 延べ22人
協 働 大高竹の会、NPO法人なごや東山の森づくりの会

事業④：生態系の回復事業、伐採木の樹幹解析、萌芽調査

なごや東山の森では、通称ハンノキ湿地、天白溪、大坪湿地と言われる湿地の回復計画が検

討されています。湿地の集水域の二次林の大径化、常緑広葉樹林化により、湿地に流れ込む地下水、地表水の量が減少しているとみられており、この回復のために集水域の二次林の徐間伐等の保全作業を計画しています。本事業では、この基礎的データの収集のため、現在の集水域の3サイト (10m×20m) を設定して、毎木調査を実施しました (写真⑤)。

この毎木調査には、なごビオと関係のある高校生物部や大学生物サークル等に参加を呼びかけ、岐阜大学の生物サークルG-ametの学生5名、向陽高校の教員1名に参加してもらいました。また、なごや東山の森づくりの会のユースメンバーである名古屋大学の生物研の学生1名や院生2名も参加しました。これは、部会活動に公募で有志に参加してもらった初めての試みでしたが、関心の高いユース世代に参加して貰い、充実した活動となりました。参加したメンバーの中から、準部会員として部会に関わる新たなメンバーを得ることが出来ました。今後は、この仕組みを活用してさらに部会メンバーの充実も図っていきます。

期 間 2022年10月16日
時 間 10時～12時30分
場 所 天白溪の樹林地
参加人数 延べ17人 (部会員5 + 東山の森づくりの会会員6 + 一般6)
概 要 3班に分かれ、10m×30mの区域内の高木について調査

参加者アンケート結果

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
調査内容	5	1			
調査時間		3	3		
部会員の説明	6				
資料	4	2			



写真⑤天白溪毎木調査の参加者

■意見・感想（抜粋）

- 毎木調査は初めてだったが、一から丁寧に教えていただき、ありがとうございました。貴重な体験をさせていただきました。また機会があれば参加させていただきたい。
- 大学講義でもなかなか体験することができないほどの本格的な調査で、とても勉強になりました。
- 今まで毎木調査というものをやったことがなく、方法を知っているだけだったので、実際に調査をするという経験をできてよかった。また機会があれば、ぜひ参加したい。

事業⑤：生物多様性保全、普及に関するアンケート調査

今年度は今後のアンケート調査活動に向けての企画を検討しました。次年度に、なごやの生物多様性に関する認知度調査を実施する案の検討を進めています。

事業⑥：日常生活圏における生物情報の普及啓発手法の検討

事業①、④の調査結果をいち早く、効果的に管理者に伝える方法の検討をしています。

本部会では、希少植物の新たな分布確認が相次いでおり、なごやの生物多様性保全上、重要な情報を得られています。今後もその成果を効

果的に活用していくための仕組みづくりを進めていきます。

今後について

区別及び希少種別に集中的に植物相や植生、および生育状況の実態を明らかにする調査では、予想を上回る成果を得られています。

今後は、集まってきた貴重なデータを保全に活用する段階に入ってくると考えています。事業⑥で地域に還元する活動や仕組みづくりもその一つです。

次年度以降も調査対象とする区、希少種を決めて、集中的に調査を行うことで、地域ごとの植物の分布、希少種の生育実態を明らかにし、その成果の活用を図っていきます。

2023年度以降は、次期生物多様性国家戦略の重要な施策の一つである日本版OECM（自然共生サイト（仮称））の認定が開始されます。本部会で集めてきた情報はこの認定を進めるためにも重要な基礎的情報となると考えています。今後もこうした名古屋市の施策の支援にもなる様に、更なる活動の充実とより効果的な啓発、普及（生物多様性の主流化、SDGsへの貢献）を図っていきます。

はじめに

令和3年度より本格的に活動を開始した本部会だが、本年度も引き続き保全や調査などを中心とした活動を行った。

令和4年3月“名古屋市とその周辺から知多半島にかけてのヤマトサンショウウオ個体群は新種である”との記載論文の発表を受け、本地方のサンショウウオはオワリサンショウウオと命名された。そのため、本部会でもオワリサンショウウオの種名を推奨することとする。

主な活動内容

- ・両生類の現状把握のための生息調査
- ・ウシガエルとアメリカザリガニの防除
- ・生息域内外における保全活動の実施と支援体制づくり

今年度の活動記録

●両生類の現状把握のための生息調査

内容 オワリサンショウウオ、ニホンアカガエル(図1)、アズマヒキガエルの産卵調査を行い、現状把握に務めた。

タゴガエルや水田に棲むカエル類の鳴き声および目視による生息調査も実施した。

名古屋市内3か所と豊田市内から採集した個体において、ナゴヤダルマガエルとトノサマガエルとの遺伝子浸透調査を分子生物学的に解析した結果、表現型との差異は検出されなかった。昨年度の調査では確認できなかったアカハライモリであるが、メス(成体)1個体と幼生数十個体を市内の生息地で再確認することができた。



図1. 確認したニホンアカガエルの生体

産卵地の1地点からオワリサンショウウオの越冬幼生が確認された。本地域でのサンショウウオ越冬幼生は初確認である可能性が高い(図2)。

水田：5月31日、6月4日、7月9日、9月13日

緑地・水路：4月8日、11日、21日、6月15日、27日、7月25日、8月29日



図2. 初確認した越冬幼生

連携 名古屋市立大学大学院理学研究科附属生物多様性研究センター、名古屋市都市農業課ほか

●ウシガエルとアメリカザリガニの防除

内容 タモ網やアナゴ罟を使用した防除を実施したほか、外来ザリガニの効率的な防除を進めるため専門学校と新型ワナの開発・実地調査を行った。(新型ワナ設置場所：東山公園と平和公園)

【結果】 ウシガエル 30匹以上
 アメリカザリガニ 2000匹以上
 牧野ヶ池緑地：4月23日
 すり鉢池（猪高緑地）：
 6月20日～8月3日、11月1日～9日
 平和公園：11月17日
 東山公園：12月26日



図3. 外来ザリガニの防除（すり鉢池）



図4. 外来ザリガニの防除（平和公園）

新型ワナの開発と実地調査は以下のとおり実施した。

【結果】 アメリカザリガニ 2580匹
 東山公園：9月16日～11月31日
 平和公園：9月16日～11月31日



図5. 新型ワナでの採集調査

連携 なごや東山の森づくりの会、名東自然倶楽部、牧野ヶ池緑地保全協議会、名古屋ECO動物海洋専門学校、名城大学野生動物生態研究会、東山総合公園ほか

●生息域内外における保全活動の実施と支援・体制づくり

1. 生息域内保全

内容 オワリサンショウウオの産卵地整備を積極的に行った。東山総合公園管理課、東山動物園、NPO法人なごや東山の森づくりの会によるサンショウウオ保全に関する協議を行い、東山公園区域内において公民協働の保全活動を行っている。他の地域においても地元保全団体と両生類の産卵地整備・環境保全活動を実施した。

活動日：

4月1日、16日、27日、5月5日、6月12日、27日、7月14日、11月19日、29日、12月18日、2023年1月20日、23日、25日



図6. 生息域内保全の様子

2. 生息域外保全

内容 オワリサンショウウオやアズマヒキガエルの卵塊を一時保護し、幼生まで育成したのち生息域へ放流する活動を行った。また、なごや生物多様性センター敷地内に新設した生息域外保全エリアの整備を進め、今年度末にアズマヒキガエルとオワリサンショウウオの生育ができるよう土壌や水質の環境整備に務めた。

活動日：

4月1日～6月27日、8月16日、22日、10月18日、11月19日、29日、2023年1月30日



図7. 里帰りするアズマヒキガエル



図8. 生息域外保全エリア（なごや生物多様性センター）

連携 地元保全団体、土地管理者、名城大学野生動物生態研究会、名古屋ECO動物海洋専門学校、なごや生物多様性センターほか

結果と今後について

昨年度からスタートした本部会の活動を通して、名古屋市内における両生類の現状が顕在化し、様々な課題が見えてくるようになった。

オワリサンショウウオに関しては、生息および産卵地の水枯れが問題となっており、有効な保全方法を確立することが急務となっている。

アズマヒキガエルにおいて原因不明の個体群減少に伴う生息域外保全の必要性、さらには、水田生カエル類の生息域の減少など、今後部会が取り組むべき課題は多い。

一方で、令和4年3月に新種記載されたオワリサンショウウオの研究では部会員が加わっており、模式産地を東山公園区域内の公有地とすることが実現できた。今後、産卵地の保護を精力的に進めていく予定である。

名古屋市内の両生類の保全は、生息地や産卵地が不安定な場所が大多数であり、生息域内の保全と生息域外での保全活動を両立させる必要がある。そのため、部会では双方の活動を吟味しながら進めていく必要がある。



図9. 活動に参加した学生たち



図10. 整備前の生息域外保全エリア

はじめに

昆虫類部会は今年度より発足した新たな部会です。昆虫やクモの専門家を含む、14名の部会員で活動を開始しました。

名古屋市域とその周辺地域に生息する昆虫類、及びその環境の保全に寄与するために、様々な採集方法により継続的に各種調査を行い、またそれを担う次世代育成活動を実践しています。

主な事業内容

- ・ 定点調査
- ・ 採集・観察会及び標本作製会
- ・ 標本資料の作製と整理

今年度の活動記録

●東山公園 定点調査

東山総合公園は、名古屋市の1.2%強を占める大きな都市公園です。本年度より発足した昆虫類部会では、名古屋市の昆虫・クモ層を調べるに当たり、まずはこの名古屋市最大級の都市公園を主に調査をしてみることにしました。

本年度の調査は、4月から12月までの間に、のべ48回76人が調査を行いました。東山総合公園は「へいわの森」「ふれあいの森」「いのちの森」「くらしの森」「うるおいの森」に大きく分けられており、本年度は主にこの中の「くらしの森」と「うるおいの森」を調査しました。調査方法は、マレーズトラップ、ライトトラップ(図1)、ピットフォールトラップ(図2)、スリーピングや目視による任意採集で行いました。



図1. ライトトラップ



図2. ピットフォールトラップ

総数は、コウチュウ目56科316種、クモ目28科169種に加え、チョウ目ガ類400種程度(未確定)を名古屋市内から確認しました。希少種として、マダラコガシラミズムシ(RDBなごや;NT,RDBあいち;NT, RDB環境省;VU)が確認されました。

また、オオチビマルハナノミ(佳香蝶74(291):72大野友豪「岐阜県および愛知県におけるオオチビマルハナノミの採集記録」に報告済み)やトウキョウムネビロオオキノコ(図3)、オオメズカクシナガクチキ(図4)など総数37科102種が初確認されています。



図3. トウキョウムネビロオオキノコ



図4. オオメズカクシナガクチキ



図5. ヒメシロコブソウムシ

バッタ目では、竹林に棲むフタツトゲササキリが名古屋市で初確認され、同じく竹林に住み報告数の少ないヒサゴクササキリとともに、名古屋市市内での生息概況の一端が判明したことは特筆です。また、タイワントビナナフシ（RDBな

ごや;DD）は増加傾向にあると考えられます。

そのほか、コロギス（RDBなごや;NT）やハネナシコロギス（RDBなごや;NT）、本来は海岸沿いの照葉樹林に生息する本州最大のコオロギであるクチキコオロギ（RDBあいち;NT）も確認されました。この種は移入種の可能性も考えられます。

クモ類は169種が確認され、ヒメグモ科のアシマダラヤリグモと、カラカラグモ科のムナアカナルコグモが愛知県では初確認されています。

外来種は、ヨツモンカメノコハムシ（図6）、シナチクノメイガ（図7）、イネミズゾウムシ、テツイロヒメカミキリ、ウスバキスイ、クモガタテントウ、ベダリアテントウなどが見つかりました。



図6. ヨツモンカメノコハムシ



図7. シナチクノメイガ

●親子 昆虫・クモの採集・観察会

一般市民の方と一緒に昆虫やクモの観察と採集をしました。

第1回 6月4日(土)

午前は「猪高緑地」で、子供達22人と保護者17人の40人ほどと、講師14人で採集観察会を行いました(図8)。昼食後、午後から「なごや生物多様性センター」に各自移動して、標本作製会を行いました(図9)。ゼフィルスと呼ばれるミドリシジミの仲間などチョウの姿が目立ちました。



図8. 採集観察会(猪高緑地)



図9. 標本作製会(なごや生物多様性センター)

第2回 8月13日(土)

午後「なごや生物多様性センター」にて、子供達22人と講師10人で、標本作製と虫の名前調べを行いました(図10)。参加した子供達は、夏休みに採集してきた虫を自由研究にと細かな作業に取り組みました。



図10. 標本作製と虫の名前調べ(なごや生物多様性センター)

第3回 9月17日(土)

午前は「東山公園くらしの森」で、子供達30人と保護者22人の計50人あまり、講師13人で採集観察会を行いました(図11)。昼食後、午後から「なごや生物多様性センター」に各自移動して、標本作製会を行いました(図12)。この時期の採集のメインはカマキリやキリギリス類でした。



図11. 採集観察会(東山公園くらしの森)



図12. 標本作製会（なごや生物多様性センター）

※パラタクソノミスト（準分類学者）

学術標本・サンプルを正しく同定し整理する能力を有する者

● 標本作製

なごや生物多様性センター、もしくは名古屋昆虫館にて同定や標本作製を行いました（図13）。これは次世代の昆虫研究者やパラタクソノミスト[※]を育成する為にも、技術の移管や向上が目的で、作成された標本はセンターに蓄積されていきます。

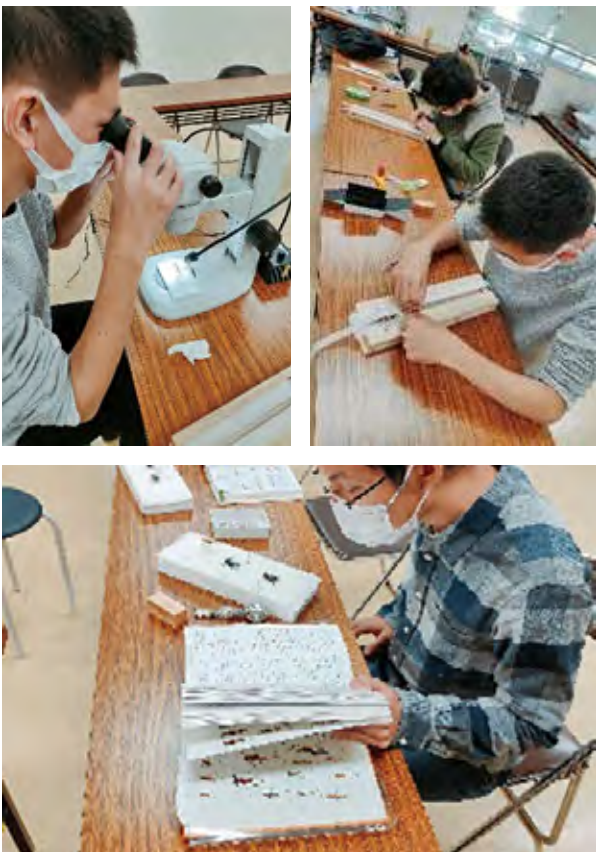


図13. 同定・標本作製（なごや生物多様性センター）

はじめに

令和4年度の広報・PR事業として以下の事業を実施しました。

- ・令和3年度活動報告会
 - ・オオキンケイギク対策会
 - ・イベントへの出展
 - ・なごや生物多様性サマースクール
 - ・なごや生きもの一斉調査～陸貝編～
 - ・池干し（西区の蛇池）
- *サマースクール、一斉調査、池干しについては別頁に掲載しております。

令和3年度活動報告会

令和3年度活動報告会を以下の日程・会場で開催しました。報告会では、4部会（動物、水辺、里山林・社寺林、両生類）の活動、一斉調査、助成金交付団体（名古屋経済大学市邨高校）の活動について報告しました。また、沖縄大学の盛口満教授に「身近な自然の多様性に気づくには」をテーマに講演していただきました。

- 日時** 令和4年5月8日（日）
会場 名古屋市立大学桜山キャンパス
さくら講堂
参加者 131人



図1. 盛口教授の講演

オオキンケイギク対策会

オオキンケイギク対策として、山崎川での駆除活動と植田川河川敷（なごや生物多様性センター周辺）での抜き取り会を以下の内容で実施しました。山崎川の駆除活動は3年ぶりに名古屋建設業協会と連携して行いました。なごビオは菖山橋周辺での駆除を担当しました。抜き取り会には一般市民にも参加していただき、オオキンケイギク対策の普及啓発を行いました。

●山崎川の駆除活動

- 日時** 令和4年5月7日（土）
場所 山崎川左岸（菖山橋周辺）
参加者 7人
駆除量 90リットルごみ袋1.5個

●抜き取り会

- 日時** 令和4年6月4日（土）
場所 植田川河川敷
参加者 40人（市民29人）
駆除量 90リットルごみ袋5個



図2. 抜き取り会の様子

イベントへの出展

●環境デーなごや

「環境デーなごや中央行事」はコロナ禍により2年間はオンライン開催でしたが、令和4年度は3年ぶりにリアル開催となり、9月17日（土）に久屋大通公園で行われました。なごビオもブースを出展し、新たに特定外来生物としての規制が予定されているミシシippアカミミガメとアメリカザリガニの生体を展示するとともに、なごビオが開発したカメ捕獲用の浮島型罟と、東山の森で名古屋ECO動物海洋専門学校の学生とともに試験的に使用している、ザリガニ捕獲用の新型罟の実物を展示しました。当日は名古屋ECOの学生の皆さんに説明員として協力いただきました。また、各部会の活動を紹介するパネルを展示するとともに、活動報告書等を配布しました。好天に恵まれて、なごビオブースの来場者は約600人でした。

●なごや生物多様性センターまつり

センターまつりも4年ぶりの開催となり、10月29日（土）に行われました。なごビオは環境デーと同様の内容の展示を行いました。センターまつりでも名古屋ECOの学生の皆さんに協力いただきました。



図3. センターまつりでの展示



図4. センターまつりの来場者

なごや生物多様性サマースクール2022

はじめに

なごビオでは生物多様性を知る第一歩として、小中学生を対象に、子どもたちが参加しやすい夏休みを利用して「なごや生物多様性サマースクール」を開催しています。

「夏休みの宿題 応援します！」をテーマに、自由研究の助けとなるようなごビオ会員が講師となり、専門知識を活かした様々な講座を開催。里山や川など身近な自然環境に生息・生育する生きものたちに直接出会えるフィールドワークから、室内でじっくり学ぶ実習まで幅広い講座を企画しています。

今まで気付かなかったことや、普段見ることができない世界に目を輝かせる子どもたち。わくわくする楽しい活動が学びにつながり、少しでも生物多様性に関心を持ってもらえるよう心がけています。

毎年、定員をはるかに超える応募があり、夏休みには欠かせないイベントとなっています。

令和4年度の活動記録

開催期間 令和4年7月23日(土)～8月8日(月)

講座数 全11講座

参加者数 延べ176名 (同伴者延べ126名)

講師人数 延べ51名



① 竹林調査と水鉄砲作り



講師 花水緑の会 (大高竹の会)
日時 7月23日(土) 10:00～12:00
会場 大高緑地 猪根の森 (緑区)
定員 15名

② 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう!



講師 相生山緑地オアシスの森くらぶ
日時 7月30日(土) 8:50～12:00
会場 相生山緑地オアシスの森 (天白区)
定員 10名

③ チョウの採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
日時 7月30日(土) 9:00～15:30
会場 猪高緑地 (名東区)
なごや生物多様性センター (天白区)
定員 定員 20名

④ 甲虫の採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
日時 7月30日(土) 9:00～15:30
会場 猪高緑地 (名東区)
なごや生物多様性センター (天白区)
定員 20名

⑤ 猪高緑地の水の生き物観察



講師 名東自然倶楽部
日時 7月31日(日) 9:00～11:00
会場 猪高緑地 すり鉢池 (名東区)
定員 15名

⑥ 植田川の水生生物調べ



講師 名古屋市環境科学調査センター
日時 8月1日(月) 9:30～12:00
会場 植田川 (天白区)
なごや生物多様性センター (天白区)
定員 20名

⑦外来種の昆虫を捕って駆除しよう



講師 なごや外来種を考える会
 日時 8月2日(火) 9:30~11:00
 会場 猪高緑地(名東区)
 定員 20名

⑧大矢川源流の生きもの探し



講師 愛知守山自然の会
 日時 8月3日(水) 10:00~12:00
 会場 大矢川源流域(守山区)
 定員 20名

⑨天白川の水源を訪ねてみよう



講師 名古屋自然観察会
 日時 8月6日(土) 9:30~12:00
 会場 天白川支流岩藤川上流部(日進市)
 定員 15名

⑩調べてみよう!川の生きもの



講師 NPO法人日進野菜塾
 日時 8月6日(土) 9:30~11:45
 会場 日進野菜塾 西原の圃場(日進市)
 岩崎川下流(日進市)
 定員 20名

⑪池のプランクトンの世界



講師 名古屋市環境科学調査センター
 日時 8月8日(月) 10:00~15:00
 会場 茶屋ヶ坂池(千種区)
 なごや生物多様性センター(天白区)
 定員 20名



なごや生きものの一斉調査 2022～陸貝編～

はじめに

「なごや生きものの一斉調査」の目的は、多くの市民の方々に身近な自然や生き物に親しみと関心を持っていただくことです。今回の調査はカタツムリ等の「陸貝」を対象としました。2012年度に調査して以来、10年ぶりの調査です。

今回の一斉調査も10年前と同様に、鳳来寺山自然科学博物館学術委員の川瀬基弘氏に監修をお願いしました。

主な活動内容

今年度も、学校や他都市の保全団体と連携し、市外も含めて例年よりも広い範囲、多くの地点で調査を実施しました。

●実施体制

主 催 なごびオ

(事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター)

協 力 連携団体 公益財団法人名古屋市みどりの協会
名古屋市理科教育研究会（小中学校4校）、名古屋経済大学市邨高校、名城大学附属高校、愛知県立一宮高校、NPO法人海上の森の会、NPO法人もりの学舎自然学校、二村山豊かな里山づくりの会、公益財団法人愛知県都市整備協会、岩間造園(株)、一般財団法人公園財団、NPO法人犬山里山学研究所、名古屋産業大学長谷川ゼミ

●実施内容

(1) 調査リーダー事前講習会

日 程 9月7日(水)、11日(日)

場 所 興正寺公園

講 師 川瀬基弘氏・横井敦史氏

参加者 95人

(2) 一斉調査

日 程 10月8日(土)、9日(日)、10日(月・祝)を中心に前後約1か月間

参加者 のべ715人

調査地点 66地点（市内58地点、市外8地点）



図1. 調査地点

●実施方法

(1) 調査対象

すべての陸産貝類（ナメクジの仲間を含む）を調査対象とし、生貝だけでなく死殻や破片などもすべて採集しました。

(2) 採集方法

最初は、素手による直接目視採集で、倒木・転石などの裏側、朽木の表面や内部、立ち木の葉の裏面などを調査しました。また、熊手やスコップを用いて、落葉の下に隠れる個体も採集しました。その後は、湿度の高いリター層を篩（洗濯ネット）にかけて、トレーに落ちた粒子の中から微小陸貝を探しました。

(3) 同定・観察

採集した陸貝は1個体ずつ、同定資料に基づき分類し、種類名を記録しました。同定後、リー

ダーの解説により採集した陸貝を観察し、それぞれの特徴を確認しました。



図2. 採集の様子（東山うるおいの森）



図3. 同定の様子（鶴舞公園）

(4) 再同定

採集した陸貝はすべて、なごや生物多様性センターへ提出してもらい、川瀬氏はじめ3人の専門家により再同定を行い、種を確定しました。

調査結果

調査結果は表1・2のとおりです。

今回の調査では、66調査地点で全57種、8,424個体の陸貝が発見されました。市内の58調査地点では、51種、8,048個体が発見されました。

●10年前の調査との比較

10年前の一斉調査では41種、7,003個体が発見されましたので、今回調査で10種増加したことになります。前回調査で見つからなかった18種

が今回調査で見つかりましたが、一方で、前回見つかった8種が今回は見つからず、差し引きで10種の増加になりました。調査地点が33から58に増えたことも一因かもしれません。

一方、市内の各調査地点で発見された種数の平均は下がりました。また、発見された種数と個体数から算出する多様度指数の平均も下がりました。

表1. 種数と多様度指数（平均）

	種数	多様度指数
2012年度調査	9.85	1.95
2022年度調査	7.51	1.76

10年間で植生の乾性遷移が進行し、腐葉土やリター層の乾燥化が進んだのが原因の一つと考えられます。また、2022年度は愛知県全域において陸貝の種数・個体数が激減した地域が多く見られ、冬季の気温低下が記録的であったこと、年間の降水量が少なく乾燥化が続いたことが影響している可能性があります。

●名古屋市での初記録

今回の調査で、在来種3種と外来種3種が市内で初めて確認されました。

在来種の初記録はイボイボナメクジ、タカキビ、カタマメマイマイで、いずれも愛知県のレッドデータブックに掲載されている希少種です。



図4. 左からイボイボナメクジ、タカキビ、カタマメマイマイ

これらはすべて東谷山（守山区）で発見されたもので、他の希少種も合わせ、東谷山では市内で最も多くの希少種が発見されました。このことは、守山区の雑木林の環境が良好であることの指標になると考えられます。

なごや生きもの一斉調査2022～陸貝編～

表2. 調査結果

種名	確認数	確認地点数	種名	確認数	確認地点数
ヤマタニシ	31 (31)	1 (1)	ヤクシマヒメベッコウ	37 (37)	9 (9)
オキナワヤマタニシ*	75 (75)	1 (1)	コシタカシタラ	1 (1)	1 (1)
ミジンヤマタニシ	2 (0)	1 (0)	ウメムラシタラ	4 (4)	1 (1)
ビルスプリムシオイ	2 (0)	1 (0)	タカキビ*	1 (1)	1 (1)
アズキガイ	1,104 (1,104)	3 (3)	ウスイロシタラ	275 (268)	36 (33)
ヒダリマキゴマガイ	24 (18)	4 (3)	ナミヒメベッコウ	1 (1)	1 (1)
ウスイロオカチグサ	9 (9)	1 (1)	オオクラヒメベッコウ	21 (14)	3 (2)
イボイボナメクジ*	2 (2)	1 (1)	ヒラベッコウ	3 (3)	1 (1)
ニホンケシガイ	10 (10)	1 (1)	ウラジロベッコウ	129 (128)	22 (21)
ミジンマイマイ	346 (340)	10 (9)	アジアベッコウ*	12 (12)	1 (1)
ヒクギセル	85 (85)	2 (2)	ヒメコハク	102 (98)	11 (9)
ナミギセル	127 (127)	1 (1)	コハクガイ	316 (301)	22 (20)
ナミコギセル	1,969 (1,873)	43 (40)	コベソマイマイ	20 (18)	4 (3)
トクサオカチョウジガイ	668 (630)	31 (28)	ニッポンマイマイ	20 (9)	4 (2)
ホソオカチョウジガイ	230 (198)	31 (27)	ピロウドマイマイ	2 (0)	2 (0)
オカチョウジガイ	566 (543)	49 (45)	オオケマイマイ	72 (71)	3 (2)
ナタネガイ	35 (3)	11 (10)	カタマメマイマイ*	91 (91)	1 (1)
ミジンナタネガイ	4 (4)	3 (3)	マメマイマイ	29 (29)	9 (9)
ノハラノイシノシタ	1 (0)	1 (0)	ヒルゲンドルフマイマイ	25 (25)	4 (4)
ソメワケダワラ*	2 (2)	1 (1)	ウスカワマイマイ	300 (276)	19 (16)
ナガオカモノアラガイ	1 (1)	1 (1)	オナジマイマイ	33 (26)	5 (4)
ヒメオカモノアラガイ	4 (4)	2 (2)	コハクオナジマイマイ	3 (0)	1 (80)
カサキビ	5 (4)	5 (4)	イセノナミマイマイ	1,357 (1,313)	46 (40)
ヒメカサキビ	19 (18)	5 (4)	クチベニマイマイ	15 (0)	1 (0)
オオウエキビ	62 (58)	18 (16)	ナメクジ	36 (26)	9 (7)
ハリマキビ	5 (5)	5 (5)	ヤマナメクジ	1 (1)	1 (1)
ヒメハリマキビ	2 (2)	1 (1)	ナメクジ類sp.	2 (2)	2 (2)
キビガイ	25 (24)	14 (13)	チャコウラナメクジ	59 (57)	16 (15)
ヒメベッコウ	42 (35)	16 (14)	合計	8,424 (8,048)	-

()内は市内の確認数

赤字は希少種・絶滅危惧種、青字は外来種・国内移入種、*は名古屋市初記録



図5. 左から確認地点数の多い順にオカチョウジガイ、イセノナミマイマイ、ナミコギセル、ウスイロシタラ

外来種の初記録はオキナワヤマタニシ、ソメワケダワラ、アジアベッコウです(図6)。

オキナワヤマタニシとアジアベッコウは戸田川緑地(南部)で確認されました。国外外来種アジアベッコウは既に愛知県内でも発見されています。また、アジアベッコウと同所的に見つかった、オキナワヤマタニシが温室内及びその周辺で繁殖していることから、奄美・沖縄諸島の熱帯・亜熱帯系植物を運び込んだ際に、随伴

した可能性が高いと考えます。

台湾やインド原産のソメワケダワラは、山崎川(山下橋周辺)で確認されました。移入経路不明ですが、既に沖縄県や九州の一部に定着していることから、国外からではなく国内の個体群が本州に移動した可能性が高いと考えています。



図6. 左からオキナワヤマタニシ、ソメワケダワラ、アジアベッコウ

調査当日の様子



図7. 採集の様子（左から東山くらしの森、戸田川緑地、千種公園）



図8. 同定の様子（左から久屋大通庭園フラリエ、大高緑地、八竜緑地）



図9. 陸貝の様子（左から東山くらしの森、東谷山、東山ふれあいの森）

池干し～蛇池（西区）～

池干し調査実施までの経緯

この池干しは、地元学区よりハスの復活を目的として、ミシシippアカミミガメやコイ（飼育型）等の外来生物を防除したいとの相談を受けた事が発端となり、実施することが決まりました。

役割分担は、生物調査をなごびオ及びなごや生物多様性センターが、水位の操作を緑政土木局が、広報や蛇池の歴史に関する解説を地元学区がそれぞれ担うこととなりました。

事前に生物の状況や環境などを確認するため、様々な分野の調査を行い当日に備えました。池内は泥が深いため、安全面から一般参加者は募集しないこととしましたが、その代わりに生体や捕獲ワナの展示・生物の解説に加え、地元の方に蛇池の歴史をお話し頂くことで、地域の自然についてより親しみをもってもらえるよう配慮しました。

関係団体

比良学区、大野木学区（地元2学区）、蛇池堤桜保存会、西土木事務所、名古屋市環境科学調査センター、なごや生物多様性センター

事前調査

水深調査：8月5日

測量用スタッフと、小型魚群探知機を用いた水深・泥厚の測定を実施。水深は40～50cm程度ですが、100cm以上のシルト層を確認し、胴長で入れる場所は限定されることが分かりました。

水生生物調査

定性調査：2月28日

定量調査：6月11日

定性調査はタモ網のみで採集を実施し、モツゴ、トウヨシノボリ、ブルーギル、カダヤシ、スジエビ、カワリヌマエビ属の一種、アメリカザ

リガニが確認できました。

定量調査では5名30分のタモ網とモンドリ5つ30分での採集方法で実施しました。スジエビが246匹と一番多く、次いでモツゴ67匹、カダヤシ34匹を採集しました。

2回にわたる調査の結果、外来生物としてミシシippアカミミガメ、ウシガエル、コイ（飼育型）、アメリカザリガニが生息している事が分かりました。



図1. 事前調査の様子（2022年6月11日）

池干しの調査結果

11月19日(土) 8:30～13:00

参加人数：300名

連携 比良学区、大野木学区（地元2学区）、蛇池堤桜保存会、西土木事務所、名古屋市環境科学調査センター、なごや生物多様性センター、ユース（名城大学野生動物生態研究会9名、高校生5名）

事前調査で泥が深いことが判明していたため、水を残した地曳網での採集を主体に実施しました（図2）。

採集結果はスジエビ、カダヤシ、モツゴの順に多く採集されました。さらに事前調査では確認できなかったゲンゴロウブナ（ヘラブナ）が多く捕獲できました。市内で激減している淡水

二枚貝であるヌマガイの殻も確認することができましたが、生体は確認できませんでした。

さらに、北アメリカ原産の大型の肉食魚で特定外来生物に指定されているスポットテッドガー（図3）も捕獲することができました。

埋土種子調査では、以前生育していたと思われるハスの種子を、池の西側・岸付近の砂層で確認しました。

水槽展示や地元の方による解説を行った（図4）ことで、幅広く市民の皆さんが地域の自然や生きものに関心を持つきっかけとなった他、保全活動への理解と啓発に役立つ池干し調査となりました。

今後、水草の生育環境を整えるためにも特にアカミミガメやコイ（飼育型）、アメリカザリガニの防除を継続して実施することが必要ですが、「池に生きものを持ち込まない」ことも生態系を保全していくうえで重要です。



図2. 地曳網と多くの見物人



図3. 採集したスポットテッドガー



図4. 展示ブースでの解説

定例会

定例会は、なごビオメンバーの親睦を深めるため「お互いを知ろう」、「お互いに学び合おう」をテーマに平成24（2012）年10月から始まりました。

2ヶ月に1回（偶数月）の第1水曜日に開催しており、本年度はなごビオの各部会長が「部会の活動紹介」をお話ししました。開始当初はなごビオメンバーに限られていましたが、今は市民調査員や一般の方も参加できるようになっています。日頃聞くことのできないディープな内容のお話を、スピーカーの方からわかりやすく解説していただける機会はなかなかありません。

なごや生物多様性センターで開催していた定例会は、令和2年4月より新型コロナウイルスによる未曾有の社会状況で中止を余儀なくされたものの、令和3年10月よりオンラインでの開催にて再開しました。

参加者の表情や雰囲気がかみにくい等の課題は残りますが、センターへの移動時間やコストを省けるなど、メリットもありました。

また、定例会の様子は録画しており、YouTube（図1）での公開を試みています。いつでもどこでも視聴することができ、より広く機会を提供することができるようになりました。



図1. なごビオYouTubeページ
（二次元バーコード）



図2. 第70回 定例会のサムネイル画像（YouTube）

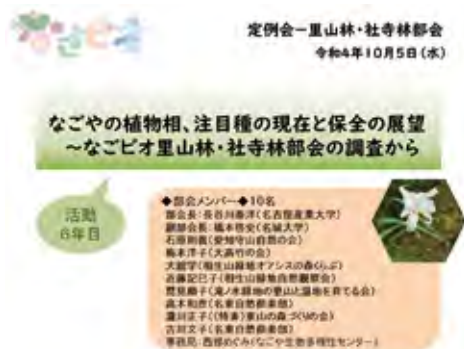


図3. 第71回 定例会のサムネイル画像（YouTube）

●開催実績（令和4年4月～令和5年2月まで）

回	月日	発表者（敬称略）	内容	参加人数
68	4/6	なごや生物多様性保全活動協議会 野呂 達哉	「緑地に住むネコの問題～動物部会のこれまでの調査から～」(オンライン)	24
69	6/1	なごや生物多様性保全活動協議会 榎原 靖	「なごビオ 水辺の生きもの部会の事業紹介」(オンライン)	19
70	8/3	なごや生物多様性保全活動協議会 橋本 啓史	「なごビオ 生物情報モニタリングデータベース部会紹介」(オンライン)	17
71	10/5	なごや生物多様性保全活動協議会 長谷川 泰洋	「なごやの植物相、注目種の現在と保全の展望 ~なごビオ里山林・社寺林部会の調査から」(オンライン)	18
72	12/7	なごや生物多様性保全活動協議会 藤谷 武史	「なごビオ 両生類部会の活動紹介」(オンライン)	31
73	2/1	なごや生物多様性保全活動協議会 戸田 尚希	「なごビオ 昆虫類部会の活動紹介」(オンライン)	28

会員活動支援

なごびオでは、会員が行う地域活動に対し、その活動の活性化と、活動を通じたなごやの生物多様性の保全を目的に、支援を行っています。支援内容は以下のとおりです。

- ▶ 調査機材の貸出
- ▶ 講師・専門家等の派遣やそれに伴う会場借上げにかかる費用負担
(調整等は会員が実施、協議会は費用を負担。1件あたり上限30万円相当)
- ▶ 市民生きもの調査員への催事案内

令和4年度は、以下の活動について支援を行いました。

令和4年度 活動一覧

実施団体名	活動内容
山崎川グリーンマップ	夏休み山崎川生きもの観察会
名古屋自然観察会	ネイチャア・フィーリング研修会
花水緑の会	沢の森湿地保全活動

上記以外にも、14件の物品の貸出を行いました。

令和4年度 市民調査員への催事案内件数

月	R4年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5年 1月	2月	3月
件数	5	2	5	1	2	7	5	2	5	4	3	2

夏休み山崎川生きもの観察会

山崎川グリーンマップ 代表 大矢 美紀

はじめに

夏休み山崎川生きもの観察会は、2008年より10年以上続けている当会の活動です。2018年からの夏の猛暑を避けるため、瑞穂橋の日陰ができる山崎川ふれあい親水公園に場所を変えています。

今回は、講師をアウトドアタレントの鉄崎幹人氏にお願いしました。また、なごびオからは子どもたちのガサガサ指導のために、なごや生物多様性センター市民協働推進員の宇地原永吉氏が参加してくださいました。

調査結果



ガサガサによる山崎川の生物調査の様子

コロナ感染の不安がぬぐいきれず、未だ参加人数を元に戻すことが出来ていません。今回は地元の小生を中心とした26名が参加、その他スタッフ15名、講師1名、合計42名の参加でした。



宇地原氏によるガサガサ指導の様子



最後に瑞穂橋下の日陰に集まり、講師の鉄崎氏より、捕獲した生き物の説明がありました。

この日捕獲した外来種は、カダヤシ多数、ザリガニ9、ブルーギル小6、ウシガエルのオタマジャクシ（大型15、小型5）、オオカナダモ。在来種は、アユカケ1、ウナギ1、ドジョウ5、モツゴ3cm1、ウキゴリ1、マハゼ2、スミウキゴリ12でした。

モツゴは、数年前までは、沢山とれていましたが、2020年からは、ほとんど見かけなくなりました。今回とれた1匹は、貴重です。山崎川に繋がっている隼人池でも、同じような現象が起こっており、関連性があるのかもしれませんが。

まとめ

2020年の新型コロナパンデミック以来、山崎川で遊ぶ子どもや親子連れが、急増しています。山崎川では、カダヤシやウシガエルなどの外来種も多いですが、海と回遊するウナギやアユも見られています。都市河川、しかも簡単にアクセスできる場所で多くの在来種が見られるという貴重な環境を、守っていききたいと思います。



ウキゴリ（左）とスミウキゴリ（右）ともに名古屋市準絶滅危惧種



アユカケ（カマキリ）環境省絶滅危惧Ⅱ類

ウナギ環境省 絶滅危惧ⅠB類

ネイチュア・フィーリング研修会・愛知県の報告

名古屋自然観察会 石原 則義

はじめに

日本自然保護協会が進める自然観察手法であるネイチュア・フィーリング。老若男女、からだの不自由な方も含め、誰とでも五感をフルに使って自然を観察し、感動を分かち合い、自然のしぐみに気づき伝えあうことが特徴です。知識に頼らない自然の伝え方がここにあります！

調査結果

日時：7月30日(土)～31日(日)
場所：東谷山フルーツパーク
参加者：受講生17名、スタッフ9名（日本自然保護協会6名、地元3名）

この研修会は、見つける・触る・匂うなど五感で感じる体験的な観察会の指導を目指すための研修でした。

経験豊富な講師の方から観察の手法を学び、葉っぱの形状や厚み、硬さなどの感触を肌で感じることや、足元に落ちている小枝などを拾って感触を確かめる体験型の観察方法をいろいろ考察してみました。

日頃普通に感じていることを、改めて言葉で伝え合うと、各人の感じ方が違うことを再認識できました。多様化する観察会参加者のため、豊かな想像力と五感を使った観察会は、まだいろいろな手法が見つかりそうだと思います。

スタッフ 浅井 昭枝

まとめ

私は庄内緑地ネイチュア・フィーリング自然観察会で活動しているのと、小学生や特別支援学級を対象に自然遊びをしているので、そのノウハウを身に付けたいと参加しました。初めは漠然と「五感で感じればいいんだ」と思っていたのですが、そうではないことに気づかされま

した。4人の講師の先生方の野外実習を体験したところ、声掛けに誘導されながら樹木を触ったり、匂いを嗅いだり、葉擦れの音を聞いたり、目で見たりと観察したのですが、五感を通して一本の樹木のしぐみや子孫を残す方法、どんな環境条件で生育するかなどを自然に教わっていることに気づいたのです。指導員として参加者に五感で感じてもらうことはとても大事ですが、ある程度の自然の知識がないと観察を深めることは難しいと思いました。また、感じたことを声に出し合い、「あっ、ほんとだ!」「そうですね〜」と共感したり、気づきを共有することの大切さも知りました。感じたことが自分だけでないと安心したり、自分が気づけなかったことの発見があるからです。

受講者 葛西 美江

ネイチュア・フィーリング研修会をきっかけに中村公園で集まる機会を8月に持ち、新しい観察会が9月からはじまりました。2023年1月例会には、5名の一般参加者が集まりました。

一人の願いをみんなの願いにしようとネイチュア・フィーリング研修会を開きました。研修会の成果です。

スタッフと参加者に感謝します。

スタッフ 石原 則義



野外実習

沢の森湿地保全活動（大高緑地）

花水緑の会 大矢 芳樹 ほか大高竹の会メンバー

はじめに

大高竹の会の活動エリアにあります谷低湿地（沢の森）につきまして、数年前から有識者より、環境を変えることにより湿性植生の回復について指摘を頂いていましたが、手を付けることなく年月が経過してしまいました。今回「富田先生・愛知県公園緑地課協働G・なごや生物多様性センター・大高緑地管理事務所」の方々の協力を得て、水源から湿地・水路の末端までを確認し活動方針を決め、有識者による現場と活動方針の確認により教授を頂き、活動方針を決定し進めることとしました。

調査結果

水源の水量は今のところ問題はないようですが、立木密度調整し蒸散量コントロール施業が必要です。

照度確保と蒸散量コントロールのための伐採木を選定しました。

今年度の予定伐採木は水路・湿地部分にかかっている木、蒸散作用を考えた落葉樹や密度低下のための木を選定（テープでマーキング）21本。又、枯れた木は倒木した際、流水条件を変える心配があるため伐採します。



伐採木のテーピングと埋土種子回復調査箇所

伐採の前に全天カメラで上空の現状を撮影（9月前半・落葉してから）しました。



伐採前の沢の森写真

沢の森も保安林であるため行政の伐採許可の確認をしてもらいましたが、今回の場所は“天然松林”にあるため、マーキング樹種に対しての申請は必要なしとの結論になりました。

調査区2か所を設定し、1か所は表土をかく乱し、もう一か所は現状のままとすることにより埋土種子による湿性植生回復を期待します。（外部からのパイオニア種の侵入も注意していきます。）

湿地部分と畑跡地の段差部分に、湿地性植物が生育していたかもしれないので調査区を設定し、表土を剥いで地下水の浸み出しの様子を見ていきます。



調査風景

まとめ

今回の改善活動により、谷低湿地が回復し湿性植生及び昆虫生息の変化について定期観察を行い、沢の森の環境改善を進めるとともに、水源の浸み出し口が踏み分け道と交差しており、破壊に繋がらないようにルート変更も併せ観察を進めていきます。

地域活動支援

なごびオでは、会員以外の活動においても、地域団体がなごやの生物多様性の保全を目的として行っている活動について、調査機材の貸出を行っております。また、必要に応じて、現場指導や生物の同定などの支援も行っています。

令和4年度は、以下の活動について支援を行いました。

令和4年度 活動一覧

実施団体名	活動内容
細口池生きもの復活クラブ	細口池生きもの復活クラブ活動2022
名古屋経済大学高蔵高等学校・中学校 理科部	山崎川生物調査活動

上記含め、7件の物品の貸出を行いました。

細口池生きもの復活クラブ活動報告 2022

細口池生きもの復活クラブ 代表 浅井 正明

はじめに

●ツバメのねぐらが復活して5年目



活動を始めて10年、1万羽ともいわれるツバメが戻って5年が経過しました。今年度は、月1回の定例ヨシ原保全活動と、月2回程度の池清掃と排水口清掃を行いました。ツバメのねぐら入りは



バンのヒナ6羽と親鳥

7月9日から10月上旬まで確認され、多くの住民が観察しました。8月には子どもたちと生きもの調査を行い、クサガメやモクズガニを採集しました。アオサギのつがいが巣に産卵したり、バンの繁殖が人気を集めました。

●定例活動：毎月第2土曜日 会員数15名

活動日	活動内容
4月9日	ヒメガマ除去
5月14日	ヒメガマ除去、湧水地保全
6月11日	ヒメガマ除去、アカメヤナギ除去
7月9日	ツバメねぐら入観察、ヒメガマ除去
8月26日 8月27日	カメわな・アナゴわな、モンドリの設置、生物調査・解説及び特定外来種除去
9月10日	ヒメガマ除去
10月8日	ヒメガマ除去
11月12日	ヒメガマ、ヨシ刈り取り
12月10日	ヒメガマ・ヨシ刈り取り
1月・2月	天候不順のため休止

●随時活動

活動日	活動内容
4月1日～ 月2回程度	池内清掃、排水口清掃、水鳥調査など

●生物調査結果 8/26・27に実施、参加者56名

調査は、カメわな、アナゴわな、モンドリ、3年ぶりに子どもたちがタモ網を使って捕獲調査をしました。クサガメ1、モクズガニ成体8、ギンブナ1、モツゴ多数、ミナミヌマエビ1、ヤゴ1、一方外来種は、ミシシippアカミミガメ、

コイ、カダヤシ、ウシガエル、アメリカザリガニを確認しました。特定外来生物は処分しました。



●12年間で確認された種 網掛けは2022年確認

分類群	種名
魚類 6種	ドジョウの仲間、フナの仲間、モツゴ、トウヨシノボリ、カダヤシ、コイ
甲殻類 4種	モクズガニ、スジエビ、アメリカザリガニ、ミナミヌマエビ
は虫類 3種	クサガメ、ニホンイシガメ、ミシシippアカミミガメ
両生類	ウシガエル（幼体多数、成体）
鳥類 25種	バン、オオバン、アオサギ、コサギ、カルガモ、コガモ、オオヨシキリ、カワセミ、ツバメ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、カイツブリ、ダイサギ、ヨシゴイ、カワラヒワ、カワウクイナ、ヒクイナ、シロハラクイナ、オオジュリン、スズメ、ハシボソガラス、モズ、ムクドリ、マガモ
昆虫類 10種	ヒメミズカマキリ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、クロイトトンボ、アジアイトトンボ

まとめ

ヨシ原の保全作業は維持的な作業に移り、労力的には軽減されています。ヨシ原を健全に育成させるため、できるだけヨシの刈り取りを進める必要が出てきています。水面の占有率は概ね40%保持されるよう目標を持って刈り取っています。水中及び底質の小動物を豊かにするため増殖したコイを少なくすることが課題となっています。湧水か所は変動なく良好な状態を保ち、水質保全に役立っています。生きもの調査では、5年連続でモクズガニが（8匹）定着し、ギンブナ、秋にはマガモが初めて見られました。カモ類はコガモ・カルガモ・マガモが、クイナ類はバン・オオバン・クイナ・ヒクイナ・シロハラクイナが見られます。最近池内にシベリアイタチが頻繁に見られます。10年間ヒメガマを除去した結果、ヨシが優占し安定しています。



助成金事業

なごびオでは、自然環境保全の後継者育成を目的とする活動や、新たに取り組まれる保全活動を支援することで、次世代の担い手づくりや新たな活動の創出を応援しています。

開始から8年目にあたる令和4年度は、5件の助成を行いました。

また、令和3年度から助成金事業に対する寄付の募集を開始し、令和4年度は合計35,478円（銀行振り込み：26,000円、活動報告会における募金：9,478円）のご寄付をいただきました。寄付金はユース（高校）への助成金に充当させていただきました。ご協力ありがとうございました。

令和4年度 活動一覧

実施団体名	活動内容
愛知県立愛知総合工科高等学校 科学技術部	マイクロプラスチック
愛知県立佐屋高等学校 科学部	花ハスの特性の研究と遺伝資源の保存収集
名古屋経済大学市邨中学校・高等学校 科学研究部	里山モデルづくり
名古屋市立桜台高等学校 天文部生物班	桜台高校天文部生物班の活動報告
南山高等・中学校 男子部 理科部生物班	南山高等・中学校 男子部理科部生物班の活動

はじめに

本校は、平成28年に愛知県立愛知工業高等学校と愛知県立東山工業高等学校の合併で、東山工業高校跡地に開設された新しい学校である。機械系、電気系、建設系、デザイン系と昨年度応用化学系に変わり理工科が新設された。1学年9クラス規模の工業高校である。

今回、化学系の部活動で生物多様性に関連する研究を考えていたとき、生徒から「マイクロプラスチックって本当に害があるの?」と言う声が上がった。ニュースではよく聞くが、実際に私たちの住む名古屋近郊でどれだけの被害があるのか知りたいのがきっかけであった。

活動内容

まず、マイクロプラスチックが存在するのか確認する練習が必要であった。インターネットで情報を見つけ、見よう見まねで練習を繰り返した。また、中部大学の武井先生にご助言をいただき、分離後の染色に必要な染料を手に入れることができた。

生物調査（砂浜のマイクロプラスチック確認と生物体内のマイクロプラスチック確認）を、豊浜港と名古屋港（写真1）で行った。魚を捌き食道から肛門までの内容物を取り出し、比重法を利用してマイクロプラスチックの分離と染色を試みたが、肉眼で確認できる物体はなかった。練習では分離ができたが、肉眼で確認できないほど小さなプラスチックを捕足することができなかつたと考えられる。技術向上が必要である。

今年度はマイクロプラスチックの分離と確認に重点を置いて活動した。その途中経過を10月に開催された、なごや生物多様性センターまつり（写真2）でポスター発表を行い、そして学校の文化祭でも発表できたことで、来年度の課題が確認できた。なごや生物多様性センターまつりでは、他の発表を間近で見られたことで、より

一層取り組む気持ちが強くなったことも成果であった。



写真1.名古屋港での砂採取の様子

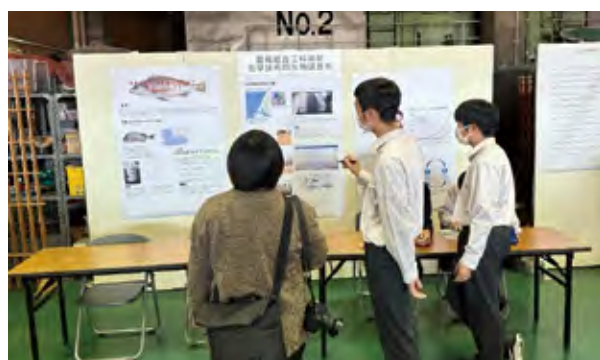


写真2.なごや生物多様性センターまつりで

まとめ

今年度は、まず身近な生物を汚染するマイクロプラスチックを知ることが重要であった。文献を確認し、大学の先生と交流ができた。部員同士で相談する時間も増え、主体的に問題解決に踏み出した感じが見られた。日々の部活動（写真3）の中で今後も生物多様性に注目し研究を続けていきたい。



写真3.部活動の様子

花ハスの特性の研究と遺伝資源の保存収集

愛知県立佐屋高等学校 科学部 顧問 武田 誠司

はじめに

ハスは、かつてはスイレン科スイレン属に分類されていたが、形態的・遺伝的に特性がより解明されることにより、現在はハス科ハス属に位置づけられている。本校が位置する愛知県愛西市は、旧立田地区が全国有数のレンコンの産地である。食用レンコンと花ハスとの大きな違いは、地下茎（レンコン）の肥大状況である。利用部位に応じて育種・選抜された結果といえる。立田地区は食用レンコン以外に、江戸期に全国に普及した赤ハスの誕生地でもあり、花ハスを守る取組が今も続けられている。

今回、本校は花ハスの立田地区での保存状況を調査するとともに、花ハスの特性を調べた。また、校内に今後、花ハス園を整備することを目標に準備を進めた。

調査方法及び結果

●花ハスの調査

花ハスを調査した地域は以下のとおりである。
愛知県

愛西市立田地区（立田赤蓮保存田、
森川花ハス田、船頭平河川公園）

調査方法

保存種の特定、保存種の形態の調査

●ハスを種から育てた時の越冬状況

冬季の地下茎の状況の調査

●花ハス園の整備

校内に花ハス実験田の製作

●調査結果

(1) 花ハスの調査

① 森川花ハス田 保存品種

陽山紅蓮 ミセス・スローカム 早尾紅蓮
舞妃蓮 早尾紅蓮 ロータスホワイト

② 立田赤蓮保存田 保存品種

立田紅蓮 漁山紅蓮 白加賀 陽山紅蓮
皇居和蓮 真如蓮 桜蓮 群馬紅蓮 金輪蓮
他 24品種

③ 船頭平河川公園

陽山紅蓮 毎葉蓮 漁山紅蓮 八重茶碗蓮
姫蓮 大賀蓮 精華蓮 黄陽蓮 舞妃蓮
ミセス・スローカム 清月蓮 朝田寺紅蓮
紅孔雀 真如蓮 紅舞妃蓮

整備状況は、森川花ハス田は近くに道の駅がある関係で、比較的整備されている。立田赤蓮保存田は、品種間の境界が不明瞭になりつつあり、交配により品種が維持できるか心配である。

(2) 保存種の形態の調査

調査した地区の中から無作為に以下の品種の葉身、葉鞘5株ずつ計測し、平均値比較をした。

4品種の中では早尾紅蓮が最も小型の品種と思われる。葉の大きさに応じて高さも大きさの序列では同様な結果になったと考えられる。

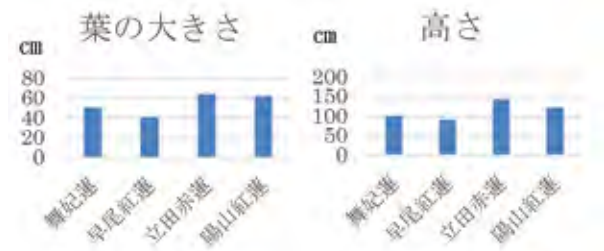


図1. 調査品種 葉の大きさ平均 図2. 調査品種 高さの平均

●種からの育てた場合の調査（越冬状況）



写真1. 越冬株（品種：小倉西）

5月から1品種2粒用い、合計で12株を育て、冬季まで生存した5株（5品種各1株ずつ）を調査した。

●花ハス園の整備

実験池、鉢の展示箇所を設け、今後、毎年品種を増やす計画である。



写真2. 整備した実験池

まとめ

紙面の都合上、取組の一部の紹介となった。本校科学部は今後も花ハスの取組を継続して行っていく。この度の助成を深く御礼申し上げます。

はじめに

本学は、名古屋市東部の千種区に位置しており、「自然と人との共生」を掲げている。生徒と教員が協力して、林、草原、エコスタックからなる「学校ビオトープ」を校内に創出し、生物多様性の保全活動の学びに生かす取り組みを行ったので、これについて報告する。

活動内容、調査結果、活動の成果など

●学校ビオトープの紹介と施設見学

愛知サマーセミナー（東邦高校）で、「SDGs15 陸も自然も守ろう」を目標とした、学校ビオトープづくりの活動を発表した。また、活動の着想を得るため、科学研究部の中学生部員と豊橋自然史博物館・岐阜県金華山リス村を見学した。

●大学施設見学と本校のシンボルツリーの分子系統樹の分析

名古屋市立大学大学院理学研究科附属生物多様性研究センター様にて、「生命科学とDNA」というテーマで、研究室訪問と実験体験をさせて頂いた。また、本校のシンボルツリーであるソメイヨシノ *Prunus yedoensis*・クロマツ *Pinus thunbergii*・ゴヨウマツ *Pinus paviiflora*・ツバキ *Camelia japonica*・サザンカ *Camelia sasanqua* の葉のサンプルを採集し、DNA分析を依頼した。rbcLおよび、matkの部分配列を用いて作成された系統樹を頂いた。



写真1.実験体験

●なごや生きものの一斉調査「陸貝編」

八事興正寺にて行われたリーダー講習会に参

加し、その後、学内で調査方法を共有し、学内の緑地帯で陸貝の調査を生徒・教員89名で行った（写真2）。10種、426個体が採集された。



写真2.学内での陸貝調査

まとめ

令和4年は、「里山モデルづくり」を進めてきた。しかし、10月より学内の駐車場の移転工事が旧ビオトープであり、順調に進められなかった。このため、学内の緑地帯に活動先を求め、「陸貝」の調査を進めた。駐車場の工事が終わったのは、12月初旬である。農園の大部分が失われた。しかし、学校の思いと2013年より始まった生徒のこれまでの活動の実績があり、旧ビオトープ内の28種類、98本の木々は、これからも大切に育てられていく。写真3は、門近くの1本のサクラである。初夏からついた「サクラのつぼみ」は、冬の厳しさを耐え、来春に花が咲く。生物多様性の保全活動に対する「心持ち」や「考え方」の本質を学ぶことができた1年間であった。



写真3.市邨一本桜 令和4年12月16日

桜台高校天文部生物班の活動報告

名古屋市立桜台高等学校 天文部生物班 副部長 郡司 華澄・顧問 林本 由紀

はじめに

桜台高校天文部は天文観測だけでなく、各自の興味のあるテーマについて研究活動を行っています。

私たち生物班は、先輩が行っていた透明骨格標本製作に興味を持ち、活動を始めました。先輩方の標本の題材は、購入できる小さな魚が主だったので、私たちは題材を地域の生き物とし、天白川に着目しました。天白川での調査を開始して本年度で2年目になります。

研究活動

透明骨格標本製作は夏休みに行いました。題材には、天白川で捕獲したマハゼの幼魚を使用しました（図1）。



図1. 製作した透明骨格標本

天白川では、マハゼ、クロベンケイガニ、シジミ、プラナリアなどの生き物を採集できました。また、ミシシippアカミミガメやカダヤシ、ブルーギルの稚魚など、特定外来生物の姿も確認しました。このような水生生物の調査の他にも、虫や植物を観察したり、石を拾って調べたり、水質や水温を調べています（図2）。また、採集した生き物の一部を飼育しています。



図2. 採集のポイント（名古屋市都市計画基本図を基に作成）

私たちは、天白川で採集した石に付着している珪藻の観察も行っています。石の表面を純水で湿らせ、歯ブラシでこすり取り、採取できた濁りを用いてプレパラートをつくり、顕微鏡で観察します（図3）。

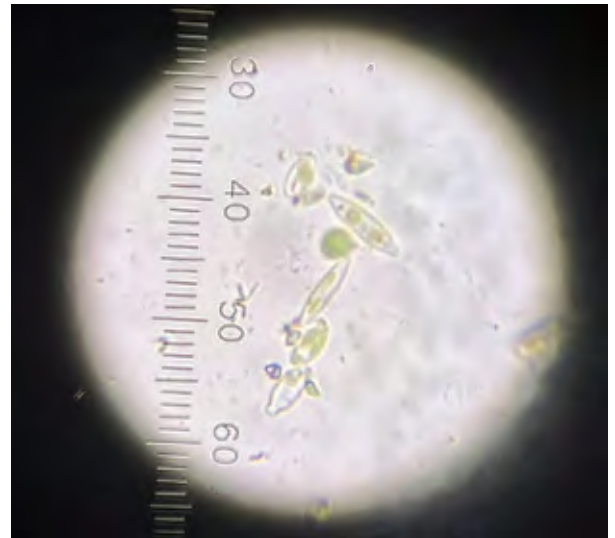


図3. 顕微鏡を用いた珪藻の観察

生物班は、桜台高校の文化祭にて展示発表を行いました。夏休み終了時点までの研究成果を一枚のポスターにまとめ、完成した透明骨格標本とともに展示しました。展示を見に来てくださった方々へ説明をしたり、質問に答えたりしました。また、1月に名古屋市科学館で行われた、「高校生による科学の祭典」でも発表しました。

名古屋市内を流れる天白川の生き物について研究を進めるとともに、魅力を多くの人に伝えていきたいと思っています。

南山高等・中学校男子部理科部生物班の活動

南山高等・中学校男子部 理科部生物班 宮下 重和

はじめに

今年度は、コロナ禍による学校閉鎖から3年ぶりに宿泊つきの合宿や文化祭の開催ができた。第33回愛知サマーセミナーでは、天白川でのFW講座を実施する予定だったが、前日の雨で増水があり、講座を中止した。フィールドに出るとこのような判断を求められるが正しい判断だったと思う。昨今、オンラインによる代用が急加速しているが、自然に直接触れる事の大切さを痛感する。そんな1年だった。

調査結果

●岐阜県水鳥谷（5. 28）へ生物採取

中間試験後の5月末、カラスアゲハなど陸生昆虫も豊富な場所だが、水生昆虫を目的とした。川魚は標本の1～2匹を採取した。ヒルに血を吸われた生徒もいたが、トビケラやカワゲラ、マゴタロウムシなどを持ち帰った。

9月には、新城市作手の長ノ山湿原で、大雨の中、タガメなどを採取した。文化祭で展示し、大人気だった。学校近くの山崎川や興正寺での採取が日常の活動である。



図1. 水鳥谷の川で採取。

●沼津（7. 21～23）の夏合宿

初日は、海岸での磯採取を中心に海水生物を観察したり、採取した。トラフナマコ、ムラサキウニ、ギンタカハマなど無脊椎動物を中心に学んだ。二日目は、発端丈山に登り、蝶や甲虫など陸生昆虫を中心に採取した。三日目は、魚を釣ったが、沼津の海は大漁で、食べることもできた。



図2. 発端丈山山頂にて。

●文化祭（9. 24～25）

テーマは「里山の自然」で、ここ数年継続されている。自然と人間は、どのように共生していけばよいのか。南山男子部の理科部生物班でも、様々な活動を通して学び、発信していく必要があると思っている。

まとめ

生物と環境を学ぶことは、とても大切な未来創りと考えている。その基盤は「植物」であるが、入部してくる生徒が希望することは皆無である。しかし、どんな昆虫や魚もその生態を詳しく学べば、必ず植物に突き当たる。その深さに触れさせたいと思っている。

相生山緑地自然観察会

団体の目的・主な活動内容

- 目的
自然観察を通して、自然に親しみ、自然のしくみを学び、自然保護・保全の大切さを伝え守ることを目的とする。
- 活動
 - ・観察会
 - ・調査・保全・保護活動
 - ・ガイドブック・冊子などの企画・執筆
 - ・なごや生物多様性センター、天白区役所他 パートナーシップ事業
 - ・他団体との情報交換など



ヒメボタル (オス)

令和4年度の活動について

- 観察会：四季折々の植物・昆虫・鳥などをテーマに実施
 - 5/13(金) そっと観察しよう～ヒメボタル = 雨天中止 = 連携：天白もり・フォーラム
 - 5/14(土) ヒメボタルを観察しよう 主催：天白生涯学習センター
 - 10/9(日) 10/10(月・祝) なごや生きもの一斉調査2022～陸貝調査編～ 主催：なごビオ
 - 10/15(土) チョウやカマキリをさがそう！
旅をするチョウ“アサギマダラ”に出会えるかも！ 連携：天白もり・フォーラム
 - 10/18、10/25、11/1、11/15、11/22、11/29 <なごや学> 自然観察ガイド 主催：天白生涯学習センター
 - 11/11(金) 相生山緑地を味わおう「もり」の散策で発見 主催：天白生涯学習センター

活動団体の紹介 主な活動場所 相生山緑地オアシスの森 (名古屋市天白区)

相生山緑地自然観察会

携帯電話：080-9110-3330 E-mail：kimiko.k@chorus.ocn.ne.jp

- 例会の予定：定例観察… 5/13ヒメボタル、10/14秋の昆虫やアサギマダラなどをテーマに観察会実施
その他…随時、関係機関などの催事に参画予定

「あいちの海」グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

目の前にある三河湾と伊勢湾の海で見られる素晴らしい自然を、名古屋の人や地元の人に知ってもらうこと。コロナ禍も落ち着いてきており、ほぼ例年通りの活動を行うことが出来ました。

令和4年度の活動について

- ① 4月初旬 南知多町聖崎・長谷崎のウミウシ調査開始 (夜間調査も含む)。
- ② 4月20日(水) 佐久島でのウミウシ調査開始。
- ③ 5月15日(日) 「ヨットで佐久島へ！」三河湾のスナメリ観察と佐久島で化石の観察会。
- ④ 5月16日(月) 南知多町羽豆岬でのみさき小学校の磯の観察会のお手伝い。
- ⑤ 6月12日(日) 大井漁港内で、クサフグ産卵観察会。
- ⑥ 6月27日(月) 大井漁協の丹羽要一さんの底引き船に乗船し、三河湾の海底の底生生物の調査
- ⑦ 7月30日(土) ウミホタルとアカテガニ放仔観察会
- ⑧ 10月9日(日) 一色港で愛知県主催の三河湾大感謝祭に参加
- ⑨ 11月3日(木・祝) 「ヨットで佐久島へ！」佐久島地域おこし探検隊隊員の案内で、佐久島街歩き。



活動団体の紹介 主な活動場所 三河湾 南知多町・名古屋市

「あいちの海」グリーンマップ

TEL/FAX：(052)841-6048 E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp ウェブサイト：http://www1.m1.mediakat.ne.jp/aichisea/

- 例会の予定：不定期 (ウェブサイトを確認下さい)

愛知守山自然の会

団体の目的・主な活動内容

2004年から守山区の小幡緑地本園を拠り所として、より良い自然環境の保全と保護を目的に、①一般参加者向けの自然観察会の実施、②湿地の保全・保護、③マメナシなど希少生物の保全・保護、④研修や各種イベントの参加など、人と人、人と自然とを繋げられるよう、楽しみながら活動をしているボランティア団体です。

全国トンボ市民サミット、県内の湿地サミット、三重県桑名市多度町八壺谷でのマメナシ保全などに参加しています。

また、守山自然ふれあいスクール実行委員会、なごやの森づくりパートナーシップ連絡会、なごビオの行事に積極的に参加しています。

令和4年度の活動について

- 4月：桑名市多度町八壺谷マメナシ保全応援
- 4月：小幡緑地本園のマメナシ観察会
- 6月：湿地サミット参加（長久手市 鯉ヶ廻間上池・下池）
- 7月：研修旅行（滋賀県 伊吹山 野草観察園）
- 8月：大矢川上流の生き物調査（サマースクール）
- 10月：陸貝の一斉調査（小幡緑地本園・龍泉寺）
- 11月：研修旅行（長野県大鹿村 中央構造線）
- 11月：工作教室（東谷山レモンフェア、ふれあいスクール）



マメナシの観察(4月)



冬芽と葉痕の観察(1月)

活動団体の紹介

主な活動場所 小幡緑地本園内 せせらぎ湿地・マメナシ自生地

愛知守山自然の会

TEL/FAX：(052)711-3087 E-mail：norimameobata@yahoo.co.jp もしくは ryusenj2@outlook.jp

■例会の予定

【自然観察会】毎月第2土曜日 10：00～11：45（小幡緑地本園トンボの時計台前 9：45集合）

【保全活動日】毎月第2水曜日・第4日曜日 10：00～12：00（小幡緑地本園内 せせらぎ湿地・マメナシ自生地）

雨池ホタルの会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市守山区御膳洞（ごぜんぼら）にある名古屋市立大森北小学校と道路を挟んだ隣に、ため池と公園が一緒になった名古屋市内で1000番目に整備された「雨池（あまいけ）公園」があります。平成10年5月末、会員の1人が雨池の外周道路を犬と散歩中に偶然ホタルを見つけました。その後、多くの人々が輝くように光る自然の神秘に心を動かされ、雨池周辺のホタル生息地の保全に立ち上がりました。

「守山自然ふれあいスクール」検討部会にスタッフ参加して、多くの人に雨池公園の自然の素晴らしさを理解してもらい、一緒に守ってもらおうと思っています。その他、桜並木やマメナシの保全活動、公園周辺のゴミ拾い、池の浮遊物の撤去、草刈り、花壇作りなど、豊かな自然環境が育まれるように活動しています。

令和4年度の活動について

- 毎月第2及び第4土曜日は雨池公園周辺の清掃活動、「春の小川」の雑草除去と花壇の手入れを行いました。さらに秋から冬にかけてはヒメボタル生息地の雑草や木の枝を刈り取り、幼虫の生育を促しました。
- 大森北小学校の生徒たちが描いてくれた啓蒙ポスターを周回路沿いに掲示しました。
- 3月に予定していた学区子ども会連合会や大森北小学校PTAと共催の「もちつき大会」は3年連続で中止となりました。
- 5月28日に「ヒメボタル観察会」を2年ぶりに行いました。総勢70名の参加で、観察した3ヵ所では例年に増して多くの飛翔を見ることができ、子供たちの「光ってる！光ってる！」との歓声が印象的でした。
- 8月27日には同じく2年ぶりに60名が参加し「夏だ！元気にあそぼう会」を行いました。今年はスイカ割りを取りやめ、魚釣りをメインに行い楽しい半日を過ごすことができました。



ヒメボタル観察会

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市立大森北小学校の学校隣接公園である雨池公園周辺

雨池ホタルの会

TEL：(052)798-2764 E-mail：tymmoka@gmail.com

■例会の予定：毎月第2及び第4土曜日、午前10時から

大高緑地湿地の会

団体の目的・主な活動内容

大高緑地湿地の会は、湿地復元活動を行う前は、毎月1回大高緑地を半日かけて、鳥や植物等の観察会を行っていました。その活動の中で、花木園が猛暑・少雨の夏でも水がコンコンと湧き出していた事と、水がしみ出しているところに東海地方固有の植物トウカイコモウセンゴケやシラタマホシクサが生えていた事で、この水を利用して消滅しつつある湿地を復元して、そこに生息する植物や昆虫を増やせないかと考えたのが活動のきっかけです。

活動は2000年頃からで、まず初めに大高緑地を管理している愛知県に湿地復元活動の趣旨説明や許可を得るための話し合いをしました。2002年に県から許可が下り、2003年から活動に入りました。

令和4年度の活動について

活動テーマの「東海の湿地植物と生き物たくさん」を実現するために年間活動内容（右表）を決めて、毎月第二日曜日9時から11時30分で、湿地の植物に十分な日光が当たるようにするための草刈り・落ち葉掻きをメインに行っています。また、湿地性の植物は他の植物と違って栄養状態が良いと育たないため、刈った草などは全て別の置き場に運んでいます。それ以外では、外来種のアメリカザリガニ・ウシガエルの駆除及びトンボのヤゴ調査と保護を行っています。



【主な活動内容】

1月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
2月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
3月	湿地上部・誘導路の草刈り
4月	冬鳥の餌場の草刈り
5月	シラタマホシクサ自生地の草刈り
6月	中央湿地の草刈り
7月	たまり池・導水路周囲の草刈り
8月	池のアシ刈り
9月	里山植物群落の草刈り
10月	コモウセンゴケの丘の草刈り
11月	シラタマホシクサ自生地の草刈りと種まき
12月	中央池の泥上げ

活動団体の紹介 主な活動場所 大高緑地内花木園

大高緑地湿地の会（代表：大主順一）

TEL：(052)413-4435 E-mail：yoka1115@mediacat.ne.jp

■例会の予定：無し

尾張サンショウウオ研究会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市内のオワリサンショウウオの水辺環境の整備と保全。この地方のオワリサンショウウオの保全について調査と協力体制をつくる。また情報の共有をする。オワリサンショウウオ以外にも、ニホンアカガエルやアズマヒキガエルの保全にも取り組んでいる。

令和4年度の活動について

令和3年度なごビオの両生類部会が発足したのをきっかけに、今まで行ってきた産卵地の整備や一斉調査を部会の活動として行なった。また、昨年に続き危機的な産卵地の個体群に関しては、幼生を一時的になごや生物多様性センター内の施設で保護し、上陸直前で元の場所へ戻す活動を行なった。その他、危機的な状況にあるアズマヒキガエルやニホンアカガエルの産卵状況の確認と、遺伝的多様性の把握も視野に入れながら調査を行なった。

活動人数約9人



活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市全域

尾張サンショウウオ研究会

TEL/FAX：(052)781-2595（瀧川正子）

E-mail：fwie6142@nifty.com（藤谷武史）

takikawa-m@mtg.biglobe.ne.jp（瀧川正子）

■例会の予定：不定期

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

団体の目的・主な活動内容

滝ノ水緑地は、名古屋市緑区にあり、約4.4haの雑木林の中に、小さなため池と湿地があります。この地域が市街化される前の原風景を残す貴重な場所です。

私たちは、1997年に「滝ノ水緑地公園愛護会」として活動を始めました。2010年からは「滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会」となり、緑のパートナーとして、名古屋市と協定を結びました。2011年には、滝ノ水緑地維持管理計画を作成して、滝ノ水緑地の植生および生態系を維持・再生するための活動をしています。

令和4年度の活動について

〈定例活動〉

- ・湿地：除草、笹刈り、除伐、湿地植物の保護と再生
- ・樹林地：おもに常緑樹の除伐、しがらみ柵づくり、枯れ木の処理
- ・池：池に溜まる落葉の回収

〈イベント〉

環境デーなごや「身近な自然体験会」

“森で木を伐って樹名板を作ろう”（6/19実施）

〈その他〉

- ・維持管理計画に基づき、名古屋市と協働で、専門家から保全状況の確認と活動へのアドバイスをいただいています。
- ・湿地の保全について、有識者から作業の実践を学んでいます。



森を学ぶ（維持管理計画のフォローアップ）



湿地の草刈りをていねいに行う

活動団体の紹介 主な活動場所 滝ノ水緑地（緑区）

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

TEL：070-2639-6686 FAX：(052)895-8628 E-mail：sumicco.g1601@gmail.com

■例会の予定：毎月第3日曜日 9：00～12：00（11月～3月は、10：00～12：00）（変更することがあります）

地球ハグ倶楽部

団体の目的・主な活動内容

【目的】

全ての生命をはぐくむ自然の中で、親子で遊ぶ。

「ハグ+コミュニケーション=ハグニケーション」という、ハグするようなあたたかなコミュニケーションを伝え広げる。自然体験を通して、まずは一番大切な自分自身、家族、お友達、自然とつながり元気になる。持続可能な社会のために、自分と家族とみんなと自然を大切にできる子供たちを育む。身近なつながりから世界を良くしていくことを目的としています。

【活動の3本柱】

- ・自然の恵みをとって食べる“美味しい”体験
- ・自然の素材で作って遊ぶ“楽しい”体験
- ・自然の神秘を五感で感じる“美しい”体験

【育みたい3つの力】

■自分を信じる力 ■大切な人を愛する力 ■自分と地球をハグできる力



令和4年度の活動について

「BeeHappy∞Project」4年目の活動 技術・知識の向上（認定制度確立）
2022年4月～2023年3月／なごや環境大学 前・後期（なごや環境大学）
農業事業（お米部・大豆部）

活動団体の紹介 主な活動場所 愛知県中心

地球ハグ倶楽部

連絡はメールにてお願い致します。 E-mail：info@chikyu-hug.club

ウェブサイト：<https://chikyu-hug.club/>

■例会の予定：不定期（ホームページを参照）

中部蜘蛛懇談会

団体の目的・主な活動内容

- 目的：クモ類の採集、観察、調査、研究など
- 創設：1969年
- 会員数：82名
- 会誌「蜘蛛」年1回発行
- 通信誌「まどい」年3回発行
- 総会・研究発表会・懇親会：毎年2月11日（建国記念の日）
- 観察会（年4回）
- 三重クモ談話会および関西クモ研究会との合同観察会（随時）
- 合宿観察会（年1～2回）

令和4年度の活動について

（事業年度：4月～翌年3月）

- 主な活動
 - ・会誌「蜘蛛」を発行
 - ・総会・研究発表会・懇親会（2月11日、ウィルあいちにて対面形式で実施）
 - ・観察会（小幡緑地、平和公園、みよし市境川など）
 - ・日本蜘蛛学会での観察会（8/19 平和公園）
 - ・夏休み子ども観察会（八事山興正寺にて環境デーなごやとして）
 - ・合宿と合同観察会は中止
 - ・ブース展示：環境デーなごや2022中央行事に出展など



環境デーなごや中央行事のブース



ムシバミコガネグモ

活動団体の紹介 主な活動場所 小幡緑地、八事山興正寺、など

中部蜘蛛懇談会

TEL：(052)872-5853 FAX：(052)872-5853 E-mail：mail@ckumo.sakura.ne.jp

ウェブサイト：<http://ckumo.sakura.ne.jp/> 《[中部蜘蛛懇談会] で検索》

○入会：子どもから研究者までどなたでも歓迎

○観察会の参加：会員以外でも参加自由・無料（開催日はウェブサイトに掲載）

東谷山湿地群保全の会

団体の目的・主な活動内容

私たちは名古屋市最高所である東谷山（198m）周辺に残る東海丘陵要素型湧水湿地群の保全活動を行っています。この湿地群は過去より遷移による湿地性生態系の劣化を指摘されています。『この地域にしかない独特の生態系を残したい、この素晴らしい自然保護の活動体験を未来に繋げたい』という思いで、2006年に県有林事務所と有志が保全活動を実施。2011年には有識者、県環境部、協力団体を中心となり当会が発足し活動がスタートしました。以後、県有林事務所と利活用協定を結び、保全活動と植生調査を継続させてきています。

東谷山湿地群は砂礫を含んだ粘土質であり、雨水の地下浸透を妨げることで貧栄養湿地（湧水湿地）を形成しています。このまま放置しておくと湿地は森林化し、希少な動植物と共に消滅します。

私たちは湿地を圧迫する要素を除去し、健全な東海丘陵型湧水湿地群の保全と動植物の保護を図ります。

- ・湿地内のヌマガヤや枯れ草を刈り取り、湿地外へ持ち出し富栄養化を防ぐ。
- ・周辺や湿地を覆う樹木を伐採し、集水域の確保と陽の光が差す明るい湿地を維持する。

令和4年度の活動について

- ① 湿地保全活動：定例活動としてY湿地保全、N湿地保全を毎月1回実施。
- ② 湿地動植物の記録：湿地性固有植物調査、会報『湿地だより』発行など。
- ③ 湿地周辺道路ゴミ拾い：投棄によるゴミを拾い、守山環境事業所へ引き渡し。
- ④ 自然観察会：普段は立入る事ができない東谷山湿地群10～15番を見学。
- ⑤ 記念誌作成：活動10周年の集大成として東谷山の植物などを記録した記念誌を作成し、近隣の学校など関連部署へ配布。



活動団体の紹介 主な活動場所 東谷山湿地群（Y湿地、N湿地など）

東谷山湿地群保全の会

E-mail：fuku.moriyama@gmail.com（福田）

■例会の予定：【東谷山Y湿地保全】毎月第一土曜日 9：30～12：00（東谷山散策道入口 9：30集合）

【東谷山N湿地保全】毎月第三水曜日 9：30～12：00（東谷山フルーツパーク第一駐車場 9：30集合）

中志段味の自然を次世代に伝える会

団体の目的・主な活動内容

才井戸流流域は将来『才井戸流湧水自然公園』（仮称）として今の自然をそのまま生かしながら生き物たちに触れられる公園になります。田んぼ跡の湧水ポイントから出る水と全域から染み出す水が、この流域の生き物たちを支えています。澄み切った川には「川モズク」が、河岸段丘の境目には「沢蟹」が生息しています。これらの自然環境保全とそこに生きる生物たちの繁殖を助けてやれるよう、湧き出る水と吹き上がる砂・河岸段丘の境目から染み出る水を大切に生かし、保全を実証しながら次世代へ永続的に継承するのが、私たち「伝える会」の活動です。

令和4年度の活動について

蟹原湿地の管理方法を見つけた事は、大きな収穫です。希少植物の分布に沿った5つのエリアを麻ひもで分けて、刈る順番のサイクルを作りながら、その年分の区域刈りを行なう。それによって希少植物の観察もできるし、繁殖管理もできる。本年、ここでもモニターリング路と子供らの入れる散策路づくりを始めました。

300mに及ぶ三ヶ月湿地の管理を、徐々に始めています。今までは、段丘に連なる竹藪の中を人が通りやすくして、空間を確保するだけの整備作業を行って来ましたが、今年度は西端から、ここを埋めている藤根・枯れ木・倒竹を片づける作業に取り掛かりました。自然公園全体の2/3は湿地です。手こずりながらの活動が続きます。



宮前湧水



スズカカンシアオイ

活動団体の紹介 主な活動場所 才井戸流全流域

中志段味の自然を次世代に伝える会

TEL : 080-6968-2327 (深田) E-mail : f-jin@yc5.so-net.ne.jp

■例会の予定 : 定例打合せ会 / 毎月第3土曜日 15:00~17:00
定例作業日 / 毎月第1土曜日 9:00~11:00 他随時

なごや外来種を考える会

団体の目的・主な活動内容

2010年から名古屋市と周辺の地域で活動しています。「名古屋地域の健全な生態系を守る」ことが活動目的です。活動内容は「外来種の調査・駆除・啓発・情報発信」です。他との協働も積極的に行います。

令和4年度の活動について

5~6月、なごビオ「オオキンケイギクワーキンググループ」の山崎川および植田川における特定外来種オオキンケイギク駆除活動に携わりました。

7月、なご環境大学連携講座「食べて減らそう外来種」のイベントを開催しました。「ザリガニ」「ブラックバス」などのほか今年度はライギョも食材として手に入り、パン粉焼きにして提供できました。おいしかったです。

8月はなごビオのサマースクールとして「外来生物の昆虫を捕って駆除しよう」を開催。「キマダラカメムシ」「セアカゴケグモ」「ヨコヅナサシガメ」を捕獲駆除しました。参加した子供たちにも覚えてもらいました。

10月はなごや生物多様性センターのセンターまつりに出展。「外来種立体パズル」が親子連れに好評でした。

1月は「モウソウチクの駆除実験」を行いました。ドリルで穴をあけ、食塩や塩水を投入して根茎を弱らせることができるかを検証中です。これができれば竹藪の管理が楽になりますね。



活動団体の紹介 主な活動場所 その都度検討

なごや外来種を考える会

TEL : 090-8867-9725 FAX : (0561)62-5510 E-mail : nonaka@kato-ken.co.jp

ウェブサイト : <http://nagorai.org/> 活動ブログ : <http://blog.goo.ne.jp/nagorai>

■例会の予定 : 不定期

「なごや環境大学」 実行委員会

団体の目的・主な活動内容

なごや環境大学は、市民・市民団体、企業、教育機関、行政が協働でつくる、環境活動のネットワークです。「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり・人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「共に育つ（共育）」ことを目指しています。

令和4年度の活動について

令和4年度は、多様なつながりを活かしつつ、SDGsを意識して事業や講座を重点的に取り組んでまいりました。

これからSDGsに取り組むたいと考えている企業や消費者向けに、先進的な事例を紹介するSDGsオンラインセミナー等、SDGsに対する理解を深める講座を実施したほか、SDGsを始めとする国内外の新しい動きを取り入れ、最新のデータや情報等を付加し、環境問題全般の知見を分かりやすく整理したテキスト「なごや環境ハンドブック」を用いた講座を開催しました。

そのほかにも、森林環境譲与税を活用し、岐阜県御嵩町をフィールドとした森を育む人づくり講座の実施や、愛知学院大学、中部大学と連携したSDGs普及啓発教育プログラムなど、人づくり・人の環づくりを意識した事業を実施しました。

<令和4年度の主催事業>

- ・「渋沢栄一の夢とSDGs」
- ・「企業向けSDGsオンラインセミナー 消費者とともに歩く企業」
- ・「地球環境学」・「なごやをささえる環境学」
- ・森を育む人づくり講座



講座の実施

活動団体の紹介 主な活動場所 まちじゅうがキャンパス

「なごや環境大学」 実行委員会

TEL/FAX : (052) 223-1223 E-mail : jim@n-kd.jp ウェブサイト : <https://www.n-kd.jp>

公益財団法人 名古屋港緑地保全協会

団体の目的・主な活動内容

当協会は、豊かで快適な港湾環境を創出するため、名古屋港の臨港地区内及びその周辺の緑化を推進し、適切な環境保全に努め、名古屋港の発展と親しまれる港づくりに寄与することを目的に、緑化に関する調査や研究、緑化に関する思想の普及啓発、緑にふれあう機会と場を提供する事業などを行っています。

また、名古屋港の臨港緑地のうち16の施設を指定管理者として管理運営しており、維持管理で発生する刈草や剪定枝を原料に堆肥を製造し、臨港緑地の花木の育成に利用するなどの「緑のリサイクル」を実践するとともに、環境に配慮した循環型の緑地管理に努めています。

令和4年度の活動について

- ・花の名前当てクイズ
- ・富浜緑地わくわく体験教室
- ・緑地見学会
- ・園芸講習会「香りを楽しむ春の寄せ植えづくり」
- ・刈草、剪定枝を原料とした堆肥の製造
- ・堆肥の無償配布
- ・伐採木無償配布（燃料として）



地域住民との協働 花の植栽



堆肥製造

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋港の臨港緑地

公益財団法人 名古屋港緑地保全協会

TEL : (052) 659-0880 FAX : (052) 659-0628 Email : info@npgpa.jp
 ウェブサイト : <http://www.npgpa.jp/> 富浜緑地(愛知県弥富市)では土日祝に木工教室など自然とふれあう体験教室を実施しています。

名古屋昆虫同好会

団体の目的・主な活動内容

この地球には様々な生物が暮らしています。その中で種数の約80%を占める昆虫は、その生活様式をそれぞれの棲息場所の環境に適応させて進化を遂げてきました。様々な昆虫がいることを知ることや、それらの昆虫が多様な生活をしていることを知ることなどは、私たちが自然を理解することの一つの入り口になります。そのような昆虫に興味を持った人々が集まった会が名古屋昆虫同好会です。

戦後間もない1949年に創立され、小学生から社会人、リタイア組みなど、地元名古屋を中心に、全国の約278名の虫好きが入会しており、東海地方を中心とした全国の虫情報（データ・生態等）が掲載される会誌「佳香蝶」と、会員情報やよもやま虫談義などを掲載する連絡誌「NAPI NEWS」を、それぞれ年4回発行しています。

令和4年度の活動について

- ・「佳香蝶」と「NAPI NEWS」を、年4回3ヶ月ごとに発行
- ・2月～9月と11月と12月の第二土曜日に月例会を開催。
- ・4月に特別講演を開催：昆虫学者 池田清彦氏
- ・4月にギフチョウ観察懇親会 in 岐阜県中津川市
- ・7月に夏季採集懇親会 in トヨタ白川自然学校
- ・8月に夏の採集会 in トヨタ白川自然学校



ライトトラップ親子採集会



夏採集会開田高原

活動団体の紹介

名古屋昆虫同好会（会長：間野隆裕、事務局：戸田尚希）

TEL：090-3567-0672 E-mail：one.sheep.toda@gmail.com

ウェブサイト：<http://nagoyakondo.com/>

活動場所：毎月第2土曜 18：30より、中小企業振興会館（通称吹上ホールのある会館）4階で、卓話や情報交換、名前調べ会などの例会を実施しています。

名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院 環境マネジメント研究科 長谷川研究室

団体の目的・主な活動内容

身近にある自然環境の生物多様性を高めると共に、より生態系サービス（自然からの様々な恵み）が豊かな地域社会を作るための方法を探求しています。

研究室のゼミだけでなく、エコレク部等の部活・サークル活動とも連携して、Web図鑑の作成、魅力的な散策ルートの開発、生物多様性に関するゲーム開発などを行っています。

令和4年度の活動について

里山や社叢などの伝統的緑地や都市緑地、都市公園を対象に、生物多様性、生態系サービスの実態把握とその評価手法の研究を行っています。

- ・東海地方の社叢調査
- ・中部地方における菌従属栄養植物の生育環境調査
- ・尾張旭市内主要緑地の動植物調査
- ・名古屋市内公園緑地の植物相、植生調査及び保全活用状況の調査
- ・瀬戸市内重要生態系の保全活動支援、植物調査



活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市、尾張旭市、瀬戸市、東海地方の重要生態系

名古屋産業大学現代ビジネス学部・大学院環境マネジメント研究科 長谷川研究室

TEL：(0561)55-5101（大学代表） FAX：(0561)52-0515（大学代表） E-mail：y-hasegawa@nagoya-su.ac.jp

名古屋自然観察会

団体の目的・主な活動内容

名古屋自然観察会（正式名は、愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）は、主に名古屋市内在住または在勤している自然観察指導員（(公財)日本自然保護協会による登録認定者）によって1982年に結成されました。現在の会員数は約100名です。主な活動場所は名古屋市内です。本会は、発足以来、身近な自然に親しみ、自然のしくみを理解し、自然を守るための自然観察会やそれに伴う環境保全活動などを実施しております。近年では、これらの活動と並行しながら、名古屋市環境局などと協力しながら、環境教育等の様々な活動を行っています。



なごや自然教室（篠島）

令和4年度の活動について

- ①市内11箇所の緑地や公園などでその自然の特色を生かした自然観察会やネイチャア・フィーリングなどの特色ある自然観察会を実施しました。
- ②子供の自然体験と健全な発育を促すための“なごや自然教室”を4回実施しました。
- ③名古屋市やその近郊の身近な自然にふれるために、8月になごビオ主催の「サマースクール」を実施しました。
- ④名古屋市環境局の環境デーなごや実行委員会が主催する身近な自然体験会（6月）を実施し、環境デーなごや2022中央行事（9月）にブース出展しました。
- ⑤名古屋市内の幼稚園や保育園、小学校などへ環境サポーターを派遣し、名古屋市環境局のエコキッズ事業に協力しました。
- ⑥会員のスキルアップを目的とした研修会を3回実施しました。
- ⑦愛知県自然観察指導員連絡協議会が主催する様々な事業に参加・協力しました。
- ⑧機関紙「なんじゃもんじゃ通信」を6回発行しました。
- ⑨ホームページなどを通じて情報発信しました。

活動団体の紹介

主な活動場所 市内の緑地や公園

名古屋自然観察会

TEL：(052)782-2663 FAX：(052)782-2663 E-mail：takilin@sf.starcat.ne.jp

ウェブサイト：<http://www.nagoyashizen.net/>

■例会の予定：例会は実施していません（役員会は偶数月の第3日曜日）。

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

団体の目的・主な活動内容

ヒメボタルを絆として、温かい心のつながりが広がるのが願いです。1975年にお堀電車の駅員だった竹内氏が、ヒメボタルの大発生を発見し、その後専門家の指導のもと保護活動をされていました。氏ご逝去後、家族・知人等で受け継ぎ、その輪が縦や横に広がっています。

ホタル発光の時期は、毎晩ホタルの数を数えたり、人々をご案内したりしています。「外堀は空堀で、ヒメボタルは陸生」「都会の真ん中のお城にヒメボタルが自然発生していることは大変貴重であること」等正しい情報発信をするため、ブース出展やステージ発表・お話し会等を行っています。専門家の方のご指導を受けて調査も行います。市と外堀の草刈り等管理方法を相談したり、清掃も行ったりしています。歌や絵本を作る・写真を撮る等、一人一人が自分にできることで活動をしています。

令和4年度の活動について

- 本年度は、北土木事務所さんと相談の上、コロナ対策をしつつ、活動と自粛を両立させながら進めました。
 - ・例年は、ホタル発光の時期、毎晩23時頃～2時頃、ホタルの数を数え毎日HPにUP、人々のご案内をしていました。→ホタルのカウン트는毎晩記録し、HPでの公表は毎日ではなく必要に応じて行い、人々へのパンフレット配布は自粛しました。
 - ・テレビ取材は慎重に受けましたが、適切な対応をしていただけました。
 - ・現地へは例年通り4月～6月上旬深夜、メンバーの一部が出かけて、安全確認とホタルのカウントを行い、貴重なデータを残すことができました。
 - ・本年度は、4月27日初見・5月23日がピーク・6月2日が最終でした。ピークの頭数は1104頭。全体としては例年より少なめとなりました。（年によって多い少ないはありません）。昨年度は、4月23日初見・5月19日ピーク・6月1日終了。
 - ・コロナの影響で3年間ほとんど広報をしていなくても、見学者はホタルのピークに合わせて来ていました。美しく力強く優しいヒメボタルの光は、人から人へと口伝えできちんと伝わっています。「受け継ぐ者たち」というのは、こうしたここに来られた皆さん一人一人であり、正しいこと、気持ちのよいことが伝わっていくといいなと思いました。
- 清掃活動は、北土木事務所さんと相談の上、感染対策を十分して行いました。
- どまつり演舞に取り上げていただけ、資料を提供し素晴らしい発表をしていただけました。



活動自粛の看板（外堀本町橋上）

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋城外堀（外堀通沿）

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

TEL/FAX：なし E-mail：meijo_himebotaru_kanbu@googlegroups.com

ウェブサイト：<https://sotobori.amebaownd.com/>

■例会の予定：不定期

名古屋市立大学大学院理学研究科附属 生物多様性研究センター

団体の目的・主な活動内容

名古屋市立大学では、2009年度末に、生物多様性に関して多様な研究を行うとともに、啓発活動を継続的に行う研究センターを設立しました。本研究センターでは、「生物分類」「生物進化」「生物地理」「生態適応」「遺伝子資源の探索」「希少種の保全」など幅広いテーマで、生物多様性の理解と生態系の保全を目指して研究を進めています。また、生物の学名を遺伝子から特定できるシステムを作ろうという国際的取り組み（DNA バーコーディング）に携わり、東海地方の動植物や東南アジアの魚類など、様々な生物の標本とDNAデータを収集するとともに、それらの進化、分類、生物地理の研究を行なっています。御興味をお持ちの方はどうぞ見学にきてください。

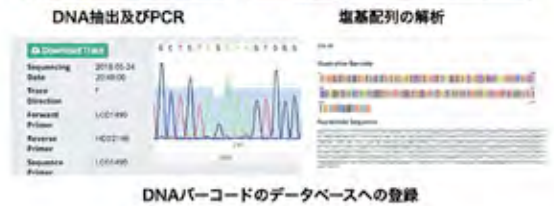
令和4年度の活動について

多くの方々のご協力のもとに、愛知県を中心に貝類・昆虫類などの標本収集を行いました。これらの標本からミトコンドリアDNAの塩基配列決定を行い、DNAバーコードライブラリーを作成するとともに、系統解析を行いました。さらに、学外の共同研究者とともに、名古屋市及びその近郊の植物について遺伝的類縁性を解明する研究も実施しました。アウトリーチ活動では、名古屋市立3高校の生徒や名古屋経済大学市邨高校の生徒・教員を対象に、生物多様性に関する体験実習をそれぞれ実施しました。一方、東南アジアの国々における生物多様性の保全を目指して、インドネシアとタイの魚類を対象とした国際共同研究にも取り組みました。

- 様々な資料の収集と保存



- DNAバーコードの解析



DNAバーコードのデータベースへの登録

活動団体の紹介

名古屋市立大学大学院理学研究科附属生物多様性研究センター

TEL : (052)872-5851 E-mail : biodiv@nsc.nagoya-cu.ac.jp

ウェブサイト : <http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/biodiv/>

■例会の予定 : なし

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

団体の目的・主な活動内容

名古屋の自然を守り、育て、ふれあい、学び、後世に継承することをめざし、加盟団体間の連絡を円滑にし、お互いに協力しあうことにより、各団体の活性化を図る目的で設立されました。

令和4年度の活動について

- 令和4年度の加盟団体数：森づくりを楽しむ28団体が加盟
 - ・定例会の開催：偶数月 第2金曜日10：00～ 定例会の開催
奇数月 第2金曜日10：00～ 幹事会の開催
 - ・フィールド訪問の開催
加盟団体の活動日に現地を訪問し、研修会を兼ね課題の共有化を図る目的で、12月11日に「大高緑地湿地の会」の現地訪問を実施しました。3月22日は「花水緑の会」のフィールド訪問を予定しています。
 - ・テーマ協議
定例会で「なごやの森づくりガイドライン(案)平成24年7月」の各章を読み解くことをはじめています。
 - ・スキルアップ研修会の開催
2月11日に名古屋市緑化センターにて、森づくりのために必要な手作業用道具の手入れについて、専門家を招いて講習会を開催しました。
 - ・広報の充実
森づくりを広報するために、森づくりのパネルをつくっています。
 - ・その他
名古屋市主催の「森づくり体験会」を6個所の緑地で実施しました。
9月17日環境デーなごや中央行事にブース出展しました。
10月29日なごや生物多様性センターまつりにブース出展しました。
なごビオの活動に関する情報を発信しています。



森づくり体験会：八竜緑地（6月）



フィールド訪問：大高緑地湿地の会（12月）

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市内の緑地

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

(事務局) TEL : (052)731-8590 FAX : (052)731-0201

ウェブサイト : http://www.nga.or.jp/moridukuri_partnership/

《「なごやの森づくりパートナーシップ連絡会」で検索》

■例会の予定：偶数月 第2金曜日 10：00～定例会の開催、奇数月 第2金曜日 10：00～幹事会の開催

NPO法人 なごや東山の森づくりの会

団体の目的・主な活動内容

「東山の森」に親しみながら森を学び、森の保全と再生を目指して森づくりをしています。

いのち輝く森を次世代につなげようと活動をしています。

雑木林・湿地・竹林の手入れ、森の観察・案内、森の調査、ソバ班、畑班、田んぼ班など里山くらし体験活動も盛んです。

令和4年度の活動について

定期的な活動は、定例森づくり活動と12の班活動で、雑木林・湿地・竹林の保全活動、子ども森づくり活動、田んぼ、畑、調査活動などです。両生類の生息地保全活動、そして2021年から新たに2年計画で、「東山の森 湿地再生プラン策定プロジェクト」を立ち上げました。

また、協働・連携活動として、なごビオの東山新池の移入種スイレンの除去活動と水草の希少種の保全活動、森の希少種保全と調査活動、生き物一斉調査。日本野鳥の会愛知県支部と猫ヶ洞池のヨシ原再生・ゴミ拾いワークショップを実施しました。

活動日数 約300回/年、活動人数延べ約3,500人



水辺の整備活動



里山の森保全活動

活動団体の紹介 主な活動場所 なごや東山の森

NPO法人 なごや東山の森づくりの会

TEL/FAX : (052) 781-2595 E-mail : nh_morizukuri@higashiyama-mori.sakura.ne.jp

ウェブサイト : <http://www.higashiyama-mori.sakura.ne.jp/>

【定例森づくり】 活動参加費 : 会員/無料・一般/200円

活動日時 : 毎月第1日曜日 9:30~12:30

集合場所 : 毎回異なります

活動場所 : 奇数月/いのちの森・うるおいの森 (東山公園南部)
偶数月/くらしの森 (平和公園南部)

NPO法人 日進野菜塾

団体の目的・主な活動内容

都市農地の遊休地の活用方法を考えることから始まり、生きものとの共生、自然を守る観点から有機農法を選び、日本の伝統文化を学び、命がつながっていく営みを知り、命の大切さを知る、そんな場にしたいと考え、農体験教室、生きもの観察教室を行っています。子供の食育、環境教育、都市住民の農への理解、自然体験の楽しさ・魅力を日々発信し続ける場となることを希望しています。又、地域の子育てNPO、介護・障がい者団体等との農を生かした連携も進めています。栽培は、農薬や化成肥料を 사용하지ません。

令和4年度の活動について

- ① 農業体験農園 (指導付き農園) 毎週土曜日 (講義と実践)
- ② ダンボール生ゴミコンポスト講座、落ち葉たい肥講座
- ③ 生きもの観察コース (子ども生きもの調査隊)
- ④ なごや環境大学共育講座「都会人の農体験塾」(前期・後期)
- ⑤ 日進・げんき朝市の事務局
- ⑥ その他、田植え、稲刈り、ハーブ教室、ミカン剪定収穫、イモ掘り、餅つきなど開催。



生きもの豊かな田んぼ体験



ハーブ教室

活動団体の紹介 主な活動場所 日進市本郷

NPO法人 日進野菜塾

TEL : 090-5443-1518 FAX : (052) 934-7207 E-mail : info@n-yasaijuku.com

ウェブサイト : <http://n-yasaijuku.com/>

■例会の予定 : 日曜日 9:00~12:00

日本カメ自然誌研究会

団体の目的・主な活動内容

本会は、カメの自然誌に関心のある研究者・ナチュラリスト・愛好家の交流・親睦・情報交換を目的とし、1998年に発足した研究会です。生息環境の破壊の影響で減少しつつある自然（野生）のカメと人との、良い関係を保つためにはどうすればよいのかを、みんなで考えています。交流のため年に一度「日本カメ会議」を開催しています。また在来のカメの保護や外来のカメの防除に関する、行政などの機関からの調査の要請も請け負っています。なごビオが発行した「ミシシippアカミミガメ防除マニュアル」は本研究会が監修しました。



令和4年度の活動について

- ・3月4日～5日に龍谷大学で「第22回日本カメ会議」を開催しました。
- ・なごビオの動物調査と保全対策部会の一員として、市内のカメ類の生態調査や外来カメ類防除を実施しました。また、カメの繁殖や保全について技術的な協力を行っています。
- ・観察会やフェイスブックなどでカメに関する情報を発信しています。

活動団体の紹介 主な活動場所 その都度検討

日本カメ自然誌研究会

TEL/FAX：(0565)35-8373 E-mail：chelonian-japan@googlegroups.com

ウェブサイト：<https://chelonian-japan.cocolog-nifty.com/>

フェイスブック：<https://www.facebook.com/kamesizensi/>

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）



花水緑の会

団体の目的・主な活動内容

2002年「花水緑の公園通り」と命名した公園を結ぶ道路を花一杯にするまちづくり運動としてスタートし、公園予定地を開墾して種から育てる花づくりに挑戦する会として発足。緑区内15か所で、「花と緑」をキーワードにしたまちづくり・緑づくりのグループです。

令和4年度の活動について

各部会に分かれて独自に活動中。

【定期活動】

- ・春の種まき（3月末から4月）マリーゴールドなど。ポット移植（5月）
- ・初夏の花苗植え込み（6月）街路樹植えマス・公園花壇など
- ・秋の種まき（9月）パンジー・ノースポールなど。ポット移植（10月）
- ・秋冬の花苗植え込み（11・12月）

【年間を通しての活動】

各部会担当街路樹植えマス・公園花壇などの清掃・除草・水遣り等の維持管理。大高緑地の竹林・雑木林の保全・整備と竹炭づくり・ササユリ自生地の保全活動。

【イベントなどの参加】

今年度も感染症対策ができるもののみ実施しました。緑区クリーンキャンペーン・緑区区民まつり・扇川緑道交流会・なごや生きもの一斉調査2022・なごや生物多様性サマースクール2022・環境デーなごや2022身近な自然体験会・大高緑地（大高竹の会）・鳴子中央公園（鳴子きずなの会）でのイベント。



活動団体の紹介

花水緑の会

TEL：(052)625-3878 FAX：(052)623-8191（緑区区役所地域力推進室）

E-mail：a6253871@midori.city.nagoya.lg.jp

■例会の予定：各部会により設定

主な活動場所 こもれば広場・大高緑地・扇川公園・通曲公園街路樹・扇川緑道・白土中央公園街路樹・上ノ山公園・鳴子中央公園・なるば一く・水広街路樹・梨の木公園・亀が洞街路樹など

隼人池を美しくする会

団体の目的・主な活動内容

地域住民に愛される公園にしたいと、活動をスタート。公園や池の清掃や除草などの手入れ、池に流入する雨水や湧水の汚れの除去などを定期的に行っている。平成21年には名古屋ため池生物多様性保全協議会と協働で、市民とともに隼人池で池干しを行った。池干しでとれた外来の魚やカメ等を取り除いた。

令和4年度の活動について

地域の憩いの場として、隼人池の自然をみんなで守り育てたいと考え、日々取り組んでいる。

①定例活動

公園・池の清掃を定期的に行っている。

②その他活動

防災訓練他、年に数回あり。



隼人池の生きものを観察する子どもたち

防災訓練の炊き出し

活動団体の紹介

隼人池を美しくする会

TEL：090-4468-0500（代表：加藤昌平）

NPO法人 藤前干潟を守る会

団体の目的・主な活動内容

藤前干潟の保全ならびに干潟環境の重要性についての啓発をすすめ、さらに広く伊勢・三河湾流域圏の環境再生・持続可能な社会実現をめざす。

令和4年度の活動について

・主催事業

「干潟の学校」

「ガタレンジャー養成講座」

「ガタレンジャー」r.

「藤前フォーラム」

環境省・名古屋市等との共催事業

・各種団体・学校等からの依頼による体感学習

・環境イベント等への出展

・環境省の委託による「稲永ビジターセンター」「藤前活動センター」の運営等

感染症対策に配慮しながら少しずつ平常活動に戻す努力をしました。特に後半は「ラムサール条約登録20年」関連イベント等の事業があり、充実した年となりました。



活動団体の紹介

主な活動場所 藤前干潟周辺

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

TEL：080-5157-2002 FAX：なし E-mail：info@fujimae.org

ウェブサイト：<http://www.fujimae.org>

■例会の予定：理事会毎月1回（不定期）・総会年1回

三河淡水生物ネットワーク

団体の目的・主な活動内容

2008年2月に設立し、愛知県を中心とした爬虫両生類、魚類、貝類、水生昆虫類などの淡水生物とそれに関わる鳥類などの生物、ならびに、河川に関わる大学や水族館・博物館、行政などの関係者や研究者（アマチュアを含む）によって構成されたネットワークグループです。「研究者間の情報交換と交流の場の創出」、「水辺生態系保全に向けた、正確なデータの収集と提言」、「市民への啓蒙と情報の発信」、「次世代の研究者育成」を目的に、年4回の会合では専門家による話題提供のほか、情報や資料の交換、標本の同定や各々の関わる事業への相互協力など。フィールドでは調査による水生生物相の把握と同時に、希少生物や外来生物の生息データの収集・蓄積。また、より多くの方に、楽しく気軽に生き物や水辺環境に関心を持って頂けるよう、水族館や博物館への展示協力、観察会やシンポジウムの講師、研究発表、研究会誌や博物館館報への投稿など、広く情報を発信しています。そのほか、図鑑をはじめとする出版物への写真の提供や協力も行っています。



蛇池の池干し（なごや生物多様性保全活動協議会）

令和4年度の活動について

新型コロナウイルスの影響で、ネットワークとしての活動は停滞気味ですが、なごBio・水辺の生きもの部会の部会員として、また専門家として、名古屋市内の池干しや水生生物の調査等に関わっています。引き続き、愛知県内において、希少種・外来種の調査も行っています。

活動団体の紹介 主な活動場所 愛知県全域

三河淡水生物ネットワーク

E-mail : fw-life@katch.ne.jp

ウェブサイト : <http://freshwaterlife.g3.xrea.com>

■例会の予定：なし

名東自然観察会

団体の目的・主な活動内容

豊かな自然環境を後世まで残す為、自然環境を意識する人を増やす事を目的として、自然観察会を行いながら、参加者の方も楽しんで体験し、意識できる活動を行うことをモットーに活動を行っています。自然を大切にする人の参加大歓迎です。「春」「夏」「秋」「冬」、自然との対話を楽しみましょう。

令和4年度の活動について

名古屋市名東区猪高緑地内において、昭和58年に会の設立以来、毎月第2土曜日9：30～定例自然観察会を開催してきました。

令和4年度コロナ禍による中止もなく開催することができ、現在までの参加者は、観察会11回開催し（令和5年2月現在）3月分を仮定すると令和4年度参加人数は180～220名になる予定です。また、猪高緑地内にオアシスの森事業として提案して復元された、18面の棚田エリアにおいては、「なごや環境大学」の田んぼ講座活動を連続15年間に渡り、田んぼ体験講座を開催してきましたが、時代の流れ？で田んぼ周辺の環境や田んぼの保護保全の継続に対する意見の変化についていけなくなり、平成28年度末をもって田んぼ14チームを解散とし、耕作活動を撤退しました。猪高緑地内における第2土曜日の名東自然観察会活動は、以前のまま継続して開催しています。平成30年度から初心に戻り、里山環境の残された、自然環境豊かな猪高緑地において、猪高緑地自然観察会の開催を続行させ、自然との出会いで年間テーマを一会一期として、参加者の方々と楽しみながら、四季を感じながら、生物多様性の保全・保護・地球温暖化による環境の変化などの観察調査活動を行っています。今後ともご支援・ご参加よろしくお祈いします。



自然観察会の様子

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市名東区猪高緑地内・他

名東自然観察会 名東自然観察会代表 堀田 守

設立：昭和58年4月～初代表は朱雀栄八郎氏・代表没後H6年度～実績を引き継ぎ継続開催中

TEL/FAX：(052)704-1196 E-mail : hori-tamori@nifty.com

定例観察会：活動日／毎月第2土曜日9：30～午前中 名東生涯学習センター前集合

その他：長袖・長ズボン着用・あれば図鑑・虫眼鏡・双眼鏡・汚れてもよい服装・履きなれた靴

名東自然倶楽部

団体の目的・主な活動内容

主に、猪高緑地の保全活動を行っています。その目的の為の活動を9つのグループがそれぞれの分野で行っています。

- ①里山保全グループ…猪高緑地内の竹林管理、植物保護などの保全活動を行っています。
- ②田んぼグループ…復元した棚田で、一年を通した「コメ作り」を体験してもらいます。
- ③炭焼きグループ…猪高緑地で増えすぎている竹を伐採し、竹炭を焼いて、有効利用しています。
- ④自然観察グループ…名東区内で自然観察会を開催し、自然豊かな緑地の魅力を伝える活動をしています。
- ⑤総合学習グループ…主に、近隣の小中学校の総合学習の時間で環境学習に協力しています。
- ⑥竹クラフトグループ…猪高の竹で竹トンボ等の竹玩具や道具を作って有効利用しています。
- ⑦調査グループ…緑地の保全の為に、生物、地形、水質の調査や保護活動を行っています。
- ⑧畑グループ…里山景観を残しつつ、有機・無農薬の野菜作りを学びます。
- ⑨水の環グループ…猪高緑地の水環境の保全を図ります。



谷地田で田植え

グループ単独のみでなく、各グループが連携して、全体活動やイベントの運営を行っています。

令和4年度の活動について

活動の一覧は右記 Web ページを参照願います。 <http://sizen.ciao.jp/schedule/2022record230331.pdf>

活動団体の紹介 主な活動場所 猪高緑地 (名東区)

名東自然倶楽部

E-mail : k-takagi@zd6.so-net.ne.jp

ウェブサイト : <http://sizen.ciao.jp/>

■例会の予定 : 全体活動日 毎月第1土曜日 9 : 00~12 : 00、各グループの活動日はホームページを参照願います。

もりづくり会議

団体の目的・主な活動内容

わたしたちは、身近な森である鎮守の森をよりよく保全するため、またその方法を検討していくために、千種区の城山八幡宮を主なフィールドとして活動をしています。小規模な会ですが、みんなで案を出し、様々な企画をわきあいあいと行っています。もりの保全活動を通じてつながる、人の輪づくりも大切にしています。お気軽に活動を見に来てください。

令和4年度の活動について

本年度に限らず、今までの活動について紹介します。

月1回、定例会議と定例活動を行っています。定例活動の主な内容は、基礎的な活動として、清掃、シュロ・ササ等の除伐、枯れ枝払い、樹名板の製作と設置等を行い、季節的な活動として、アベマキ、アズキナシ、カマツカ等の苗木作り、希少種の観察会、クラフト作成などを行っています。年末の忘年会では、メンバー自作のゲームやプレゼント交換などを楽しみながら一年の活動を振り返ります。これまでに、なごや生きもの一斉調査の陸貝編 (2022年)、テントウムシ編 (2021年)、ひつつき虫編 (2019年)、アリ編 (2018年)、淡水貝編 (2017年)、カマキリ編 (2015年) や陸貝編 (2012年) にも参加してきました。

2019年からは、城山八幡宮をはじめ、城山・覚王山地区に残る鎮守の森や斜面林の植生調査を行い、在来種や希少種の保全活動に力を入れています。2022年には茶屋ヶ坂公園の希少種が残るエリアの保全活動を行い、経過観察をしています。



活動団体の紹介 主な活動場所 城山八幡宮 ほか城山・覚王山地区内の樹林地

もりづくり会議

E-mail : morikaigi66@gmail.com

■例会の予定 : 月1回、定例会議と定例活動

名城大学野生動物生態研究会

団体の目的・主な活動内容

名城大学農学部生物環境科学科・環境動物学研究室の附属サークルです。新設された昆虫部門のほか、水生生物部門、鳥部門、哺乳類部門、の4グループに分かれて活動しています。多様なフィールドワークを通じて、卒業研究などで必要になるデータの取り方、扱い方を楽しく学ぶことができます。なごびオをはじめとする環境保全団体と協力しながら活動しています。

令和4年度の活動について

水生生物部門：カワバタモロコの域外保全、河川・ため池調査（植田川月例調査など）

鳥部門：名古屋市および遠征地での探鳥会、バードソンへの参加、ねぐら入り調査

哺乳類部門：守山リス研究会の定期調査への参加、仮剥製作成

昆虫部門：名古屋市内での虫探会、標本作成



水生生物部門



哺乳類部門



昆虫部門



鳥部門

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市周辺

名城大学野生動物生態研究会

Twitter アカウント：@yamonken_abms

■定例会：名城大学N324で月末の火曜日12：30～13：00

矢田・庄内川をきれいにする会

団体の目的・主な活動内容

きれいにする会は昭和49年12月27日に結成（会則は翌年5月制定）されました。当時の日本は高度成長期の真っただ中にあり、水も大気も汚れるのが当たり前の時代でした。その時、きれいにする会は「庄内川水系を汚すすべての汚染源に対し、きれいで快適な生活環境をとり戻し、次代へ引きつぐ」ことを目的として掲げ、活動を開始しました。

令和4年度の活動について

- ・名城大学附属高等学校との連携による投網講習会の開催（5月）
- ・矢田川魚類調査（5月）
- ・「第18回身近な水環境の全国一斉調査」の水質調査に参加（6月）
- ・矢田川・魚道調査の実施（7月）
- ・環境デーなごや2022に出展（9月）
- ・「庄内川河口・二枚貝調査」の実施（10月）
- ・才井戸流れ水質調査（10月）
- ・「第48回庄内川まつり 魚釣り大会」の開催（11月）
- ・SNSやYouTubeを通じた普及・啓発活動



矢田川魚類調査



庄内川河口二枚貝調査

活動団体の紹介

矢田・庄内川をきれいにする会

TEL：(052)794-3876 FAX：(052)796-2344 E-mail：yadashounai@gmail.com

ウェブサイト：<http://www.yadashounai.org/>

■例会の予定：4月総会、以降不定期に役員会開催

山崎川グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

都市河川である山崎川は、まわりの都市化と開発のため、戦後70年の間に大きく環境が変わりました。特に西暦2000年代に入ると、人が放流した外来種のために、本来の生態系が崩れ始めました。山崎川グリーンマップは2008年より、ミシシippアカミミガメやカダヤシなどの外来種の防除を続けています。

近年の夏の猛暑と大型護岸工事、2026年に開催予定のアジア大会に向けての周辺の工事は、山崎川の環境に大きな影響を与えていると思われます。しばらく注意深く様子を見ていく必要があります。

令和4年度の活動について

- ① 4月9日(土) なごや環境大学共有講座
山崎川の自然を知ろう！鳥の観察
- ② 4月13日(水) 山崎川で急増したオオカワジシヤの調査
- ③ 5月7日(土) 山崎川護岸のオオキンケイギク抜き取りに参加
- ④ 5月20日(金) 24:00～瑞穂運動場付近に生き残っているヒメボタルの調査。100匹ほどは確認できました。
- ⑤ 7月4日(月) 汐路小学校4年生のための環境教育出前授業
- ⑥ 7月22日(金) 夏休み山崎川生きもの観察会
- ⑦ 10月1日(土) パロマ瑞穂アリーナでイシガメ仔ガメ勉強会



7月22日 夏休み山崎川生物観察会



10月1日 イシガメ仔ガメ勉強会の様子

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市内瑞穂区山崎川
山崎川グリーンマップ
TEL/FAX: (052) 841-6048 E-mail: a-ohya@sc.starcat.ne.jp
ウェブサイト: <http://www1.m1.mediakat.ne.jp/a-ohya/>
■例会の予定: 不定期 (ウェブサイトを確認下さい)

四日市大学 野生動物保全学研究室(野呂研究室)

団体の目的・主な活動内容

当研究室では、地域における動物の分布状況や生息環境を把握するためのモニタリング手法を習得するとともに、外来種や害獣の防除、在来種の保全について実践的に学んでいます。

対象として、哺乳類、爬虫類、両生類、魚類など多様な動物群を扱っています。主に三重県北勢地域を活動の場としていますが、愛知県在住の学生も多数在籍しているため、同地域での活動にも積極的に参加しています。

令和4年度の活動について

本年度は研究室に所属する学生が以下の卒業研究を行いました。「大型店舗の照明下におけるコウモリ類の音声モニタリング」、「紀北町大白公園とその周辺で確認されたニホンジカの出没条件」、「環境DNAを用いたコウモリ類の生息調査-マンボ内のねぐらを事例として-」、「四日市大学構内及び北勢中央公園における陸貝の多様性」、「農業用水路をねぐらとする洞穴性コウモリ類の音声モニタリング」、「小規模農地における野生哺乳動物と農作物被害の関係」。

また研究室では、鈴鹿山脈朝明溪谷のブナ林保全活動への参加と三重県民の森の両生類調査を行いました。

その他、なごびオの動物部会が10月に実施した名古屋城外堀および名城公園おふけ池のカメ類調査に参加し、カメ類の捕獲方法や計測方法を学びました。また、10月29日に開催されたなごや生物多様性センターまつりに参加し、モグラ類の標本や学生の研究内容を紹介したポスターを展示しました。



カメ類の計測 (名城公園おふけ池)

活動団体の紹介 主な活動場所 三重県北勢地域、名古屋市内
四日市大学 野生動物保全学研究室 (野呂研究室)
TEL: (059) 340-1632 FAX: (059) 365-6630
E-mail: noro@yokkaichi-u.ac.jp
ウェブサイト: <https://www.yokkaichi-u.ac.jp/faculty/environment.html>



「なごや市民生きもの調査員」募集中！

なごや生物多様性保全活動協議会や協議会会員団体が行う生物調査や講習会、イベントなどの情報をメールでお届けします。どなたでも登録いただけます。詳しくは協議会ウェブサイトまで。

令和4年度 なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書

発行年月 令和5年4月

発行 なごや生物多様性保全活動協議会

(事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内)

〒468-0066

愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-831-8104 FAX 052-839-1695

ウェブサイト <http://www.bdnagoya.jp>

※本書掲載内容の無断転載は固くお断りします。